

平成28年度
全国学力・学習状況調査
恵庭市の調査結果（報告）



平成29年3月
恵庭市教育委員会



目 次

1	調査の概要	1
2	「教科に関する調査」調査結果	4
	（1）小・中学校各教科平均正答率の状況	4
	（2）教科別調査結果の詳細	6
	① 小学校国語A（主として「知識」に関する問題）	6
	② 小学校国語B（主として「活用」に関する問題）	9
	③ 小学校算数A（主として「知識」に関する問題）	12
	④ 小学校算数B（主として「活用」に関する問題）	15
	⑤ 中学校国語A（主として「知識」に関する問題）	18
	⑥ 中学校国語B（主として「活用」に関する問題）	21
	⑦ 中学校数学A（主として「知識」に関する問題）	24
	⑧ 中学校数学B（主として「活用」に関する問題）	27
3	「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」調査結果	30
	（1）小学校児童質問紙調査結果の概要	30
	（2）中学校生徒質問紙調査結果の概要	32
	（3）児童・生徒質問紙の回答状況と学力のクロス集計（基準別集計）結果	34
	（4）児童・生徒質問紙及び学校質問紙調査の主な回答結果データ	36
4	総評	39

1 調査の概要

(1) 調査の目的

全国学力・学習状況調査は、以下①・②の取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的として実施されています。

- ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

(2) 調査の対象

- ・ 小学校6年生、義務教育学校前期課程6年生、特別支援学校小学部6年生
 - ・ 中学校3年生、義務教育学校後期課程3年生、中等教育学校3年生、特別支援学校中学部3年生
- ※ いずれの学年においても、全ての児童・生徒が対象です。

(3) 調査の方式

全国学力・学習状況調査の方式は「**悉皆（しっかい）調査**」です。

悉皆調査は「**全数調査**」などともいわれ、集まったデータ全てをもれなく分析する調査のことです。（反対に、集まったデータの一部を抜き出して分析する調査は「**標本調査**」などといわれます。）

(4) 調査の内容

① 教科に関する調査（テスト）

平成28年度は、国語、算数（小学6年生）又は数学（中学3年生）の2教科ごとに「A」と「B」の2種類のテストが行われました。

A（主として「知識」に関する問題）	B（主として「活用」に関する問題）
<ul style="list-style-type: none">・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（アンケート）

児童・生徒一人ひとりを対象とした調査と、各小・中学校を対象とした調査の2種類が行われました。

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

（5）調査実施日

平成28年4月19日（火）

（6）調査を受けた児童・生徒数

単位 (人)	小学6年生				中学3年生			
	国語		算数		国語		数学	
	A	B	A	B	A	B	A	B
恵庭	610	609	609	609	637	639	639	639
全道	40,307	40,290	40,300	40,288	41,219	41,233	41,224	41,230
全国	1,036,557	1,035,276	1,036,186	1,034,873	1,038,183	1,038,316	1,038,333	1,038,627

※当日の参加人数。 ※※全道は公立学校分のみ。全国は公立・国立・私立学校の計。

（7）調査の解釈にあたって留意いただきたいこと

本調査では、児童・生徒の学力全体を明らかにすることはできません。調査した教科は2教科のみであり、設問の内容も学習内容全てを網羅しているとは限りません。

したがって、調査の結果から分かるのは、児童・生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分や、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに十分ご留意ください。

（8）調査結果の掲載方法

「教科に関する調査」（テスト）の結果については、次のような方法で表示しています。

①教科ごとの平均正答率（％）

全道・全国平均正答率との比較として、「記号」や「文言」で表します。

全国・全道平均との比較（ポイント差）	記号	文言
+5.0 以上	△	上回る
+2.0～+4.9	◇	やや上回る
-1.9～+1.9	≡	同様
-4.9～-2.0	◆	やや下回る
-5.0 以下	▼	下回る

恵庭市における「教科に関する調査」の実際の平均正答率数値については、他市町村等との単純比較や序列化などに結びつき、調査の目的を損ないかねないとの考えから、公表しません。

同様の理由により、市内小・中学校ごとの結果数値についても公表しません。

②教科の具体的な領域や設問ごとの（平均）正答率（％）

①のような全道・全国平均との比較形式のほか、市の（平均）正答率についても「記号」や「文言」で表します。

市の（平均）正答率	記号	文言
80%以上	◎	相当できている
60%～79%	○	
50%～59%	●	
49%以下	・	課題がある

（※教科の領域ごとの結果では「平均正答率」、個々の設問の結果では「正答率」を表します。）

「教科に関する調査」（テスト）の結果と異なり、「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」（アンケート）の結果については、恵庭市の回答率をそのまま表示しています。

（9）調査問題・質問内容および国・北海道の調査結果報告書について

調査問題とその正答例、解説資料及び質問紙調査の内容については、文部科学省の所管する国立教育政策研究所のウェブサイトの下記のアドレスから、PDF形式でダウンロードすることができます。

・平成28年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について
⇒ <http://www.nier.go.jp/16chousa/16chousa.htm>

また、国（文部科学省・国立教育政策研究所）としての調査結果報告書についても、同様にダウンロードすることができます。

・調査結果報告書（国） ⇒ <http://www.nier.go.jp/16chousakekkahoukoku/index.html>

北海道教育委員会としての調査結果報告書については、下記アドレスから、PDF形式でダウンロードすることができます。

・調査結果報告書（道）
⇒ <http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/gks/gakuryoku28/top.htm>

（※上記に記載したウェブサイトのアドレスは、いずれも平成29年2月28日現在のものです。）



2 「教科に関する調査」調査結果

(1) 小・中学校各教科平均正答率の状況

- 平成28年度の恵庭市平均正答率は、小学校6年生については、全ての教科で全国平均をやや下回り、算数Aでは全道平均もやや下回った。中学校3年生については、国語Bで全国平均をやや下回ったほかは、全国・全道平均と同様であった。
- 前回（平成27年度）と比べ、全国平均との平均正答率のポイント差は±1.5以内の変動にとどまり、全国平均との比較結果を示す記号も全て据え置きとなった。平成26年度以降、小・中学校全ての教科において、全国平均とのポイント差が±5の範囲内となっており、「全国平均と大きな差はみられない」状況が続いている。
- 中学3年生は、3年前（平成25年度、小学6年生時点）の結果に比べて、全国平均とのポイント差が総じて改善（縮小）している。特に、B問題（「活用」に関する問題）については、小学校6年生時点と比べて4.5～5.5ポイント改善している。

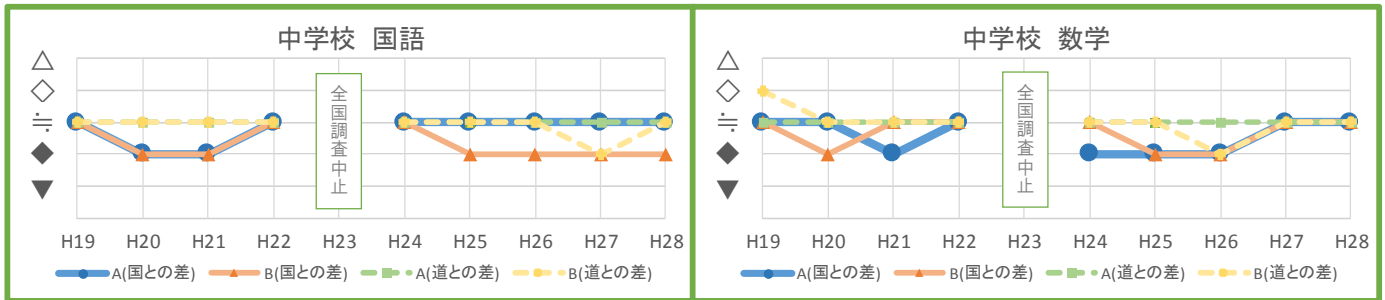
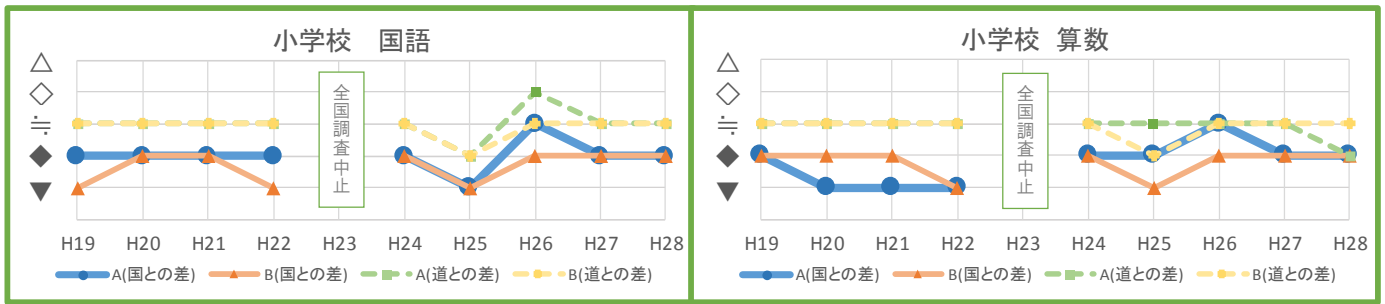
*平成28年度 恵庭市小・中学校の各教科別平均正答率

		平均正答率							
		小学校				中学校			
		国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
H28 (今回)	恵庭市 (国と比較)	◆	◆	◆	◆	≒	◆	≒	≒
	全国平均 (公立)	72.9%	57.8%	77.6%	47.2%	75.6%	66.5%	62.2%	44.1%
	恵庭市 (道と比較)	≒	≒	◆	≒	≒	≒	≒	≒
	全道平均 (公立)	71.0%	56.0%	75.3%	44.5%	75.1%	65.0%	61.8%	43.3%
	正答率の 位置	≒道<国	≒道<国	≒道<国	≒道<国	≒道<国	≒道<国	≒道<国	≒道<国
H27 (前回)	恵庭市 (国と比較)	◆	◆	◆	◆	≒	◆	≒	≒
	恵庭市 (道と比較)	≒	≒	≒	≒	≒	◆	≒	≒
	正答率の 位置	≒道<国	≒道<国	≒道<国	≒道<国	≒道=国	≒道<国	道<≒国	道<≒国

記号の意味 比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≒同様 ◆やや下回る ▼下回る

* 調査開始（平成19年度）以降の平均正答率（全国・全道との比較）推移

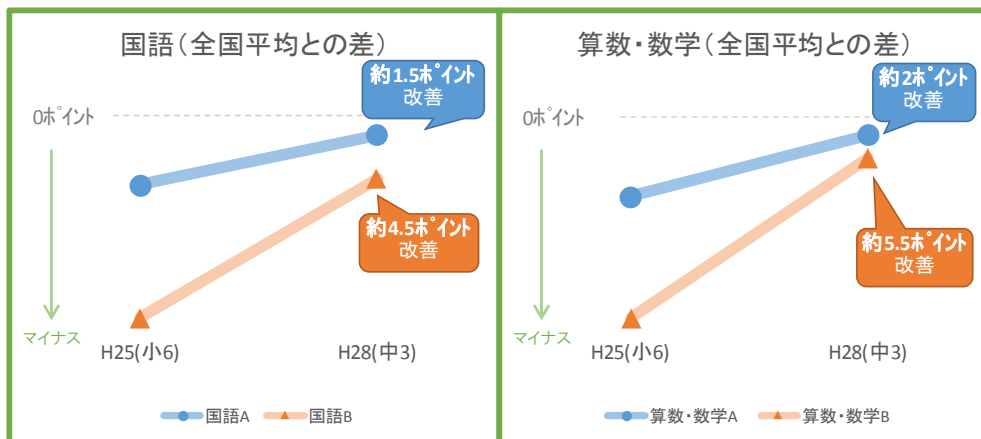
【ポイント差を表す記号の変化のグラフ】



記号の意味 比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≡同様 ◆やや下回る ▼下回る

- ・平成23年度の調査は、東日本大震災の影響等を考慮し国としては実施を中止した（希望校のみの参考実施となり、恵庭市では全ての小・中学校が参加）ため、全国の結果（平均正答率など）が示されていません。
- ・平成22年度及び平成24年度の調査は、統計的な基準で選ばれた学校を対象とする「抽出調査」方式で実施されたため、他の年度と異なり、全国の結果（平均正答率など）に全ての学校の結果が反映されていません。（希望校も任意に実施できる形式であり、恵庭市では全ての小・中学校が参加して調査結果の提供を受けていますので、恵庭市の結果については市内全学校の結果に基づいています。）

* 同一世代の平均正答率の変化（平成25年度の小学6年生→今年度の中学3年生）



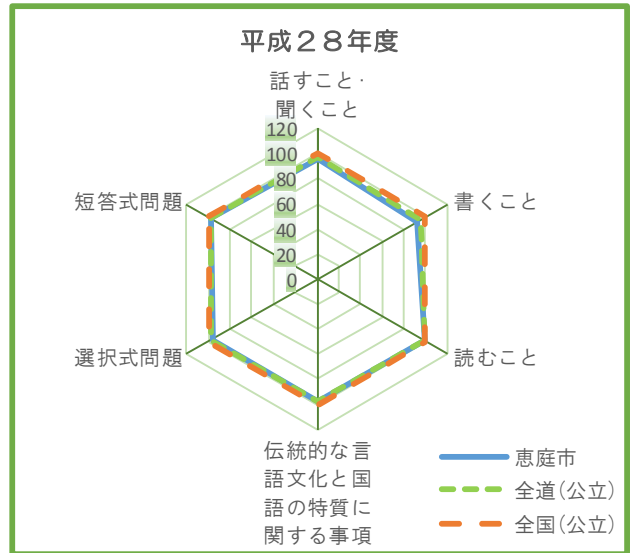
(2) 小・中学校各教科平均正答率の状況

① 小学校 国語A (主として「知識」に関する問題)

解答時間20分・設問数15問

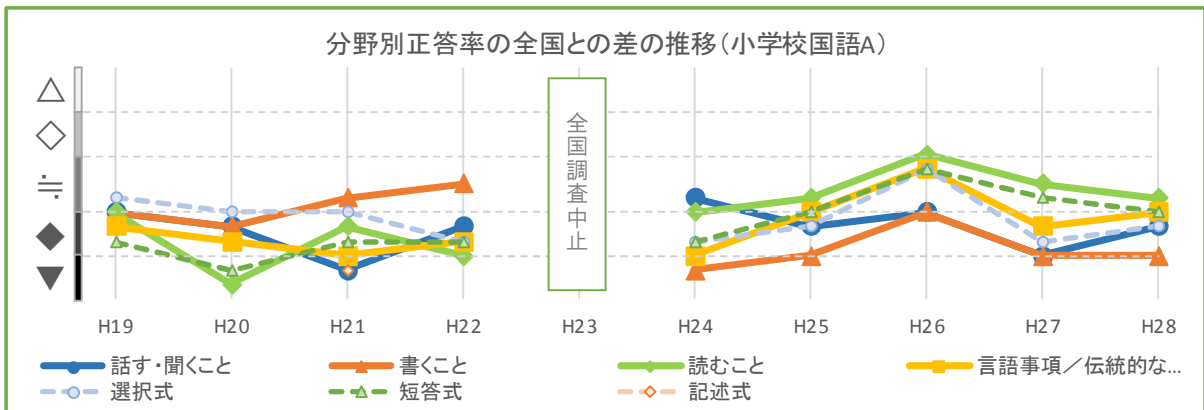
- 各領域等の平均正答率は、「話すこと・聞くこと」「選択式問題」で全国よりやや下回り、「書くこと」で全国より下回っている。ただし「書くこと」以外で全国より3ポイントを超えて下回った領域等はなく、全道ともほぼ同様。
- 正答数が全国下位4分の1層の児童の割合は、前年度に引き続き全国より2ポイント多い程度であり、全道と同程度である。
- 漢字の読み書きについて、全体としてある程度できている一方で、正答率が全国より下回るなど苦手な児童が多い傾向がみられるほか、表現の仕方の変更点に着目して助言内容を推定することに課題がある。また、ローマ字の読み・書きにも課題があり、正答率が低く、無解答率が高い。

*全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率(分野別レーダーチャート)



*小学校国語A 分野別(領域・問題形式別)平均正答率の状況

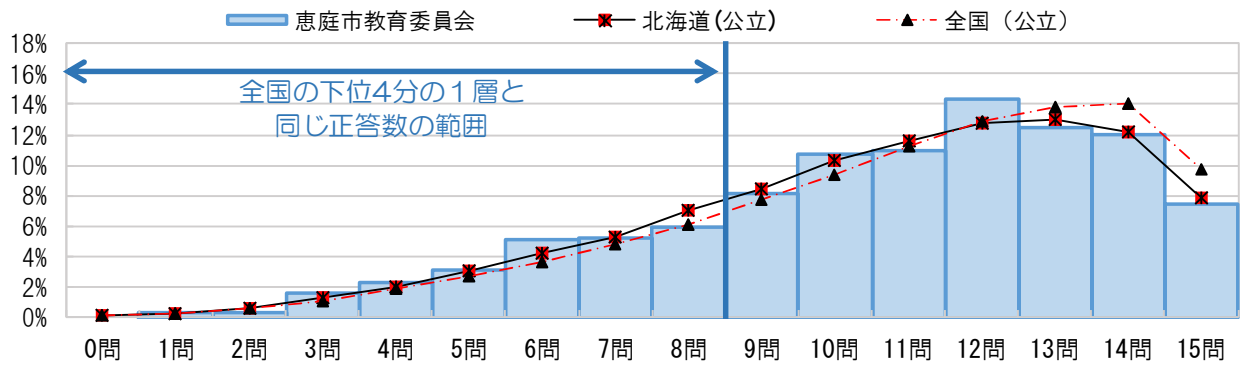
		領域別正答率				問題形式別正答率			
		話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化 と国語の特質に 関する事項	選択式問題	短答式問題	記述式問題	
H28 (今回)	恵庭市	○	○	○	○	○	○	本形式の問題なし	
	国と比較	◆	▼	≒	≒	◆	≒		
	全国(公立)	79.2%	72.8%	78.5%	71.1%	77.2%	70.0%		
	道と比較	≒	◆	≒	≒	≒	≒		
	全道(公立)	77.5%	69.7%	77.5%	69.3%	75.3%	68.2%		
H27 (前回)	国と比較	◆	◆	≒	◆	◆	≒		
	道と比較	≒	◆	≒	≒	≒	≒		
記号の意味	恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下 比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≒同様 ◆やや下回る ▼下回る								



※全国とのポイント差を単純化した数値をもとに、各年度におけるおおよその傾向を表したグラフである。

※※「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」はH23まで「言語事項」。

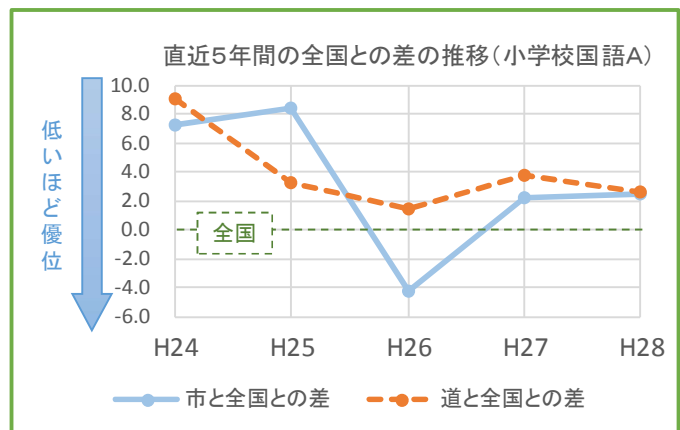
*平成28年度 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：児童全体に占める割合）



*全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
H28 (今回)	恵庭市 (前回比)	23.8% (-7.8)	2.5 (+0.3)
	全国 (前回比)	21.3% (-8.1)	
	全道 (前回比)	23.9% (-9.2)	2.6 (-1.1)
H27 (前回)	恵庭市	31.6%	2.2
	全国	29.4%	
	全道	33.1%	3.7

※割合は正答数ごとにまとめており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる児童・生徒の割合を示している。



※比較元となる全国の割合が年度によって異なるため、年度間の単純比較はできないが、おおよその傾向が把握できる。

*恵庭市における設問別結果の概要

全15問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を3ポイント以上上回った設問	なし				
全国の正答率を3ポイント以上下回った設問	5問	話すこと・聞くこと	0 / 1問	選択式問題	2 / 6問
		書くこと	1 / 2問	短答式問題	3 / 9問
		読むこと	0 / 2問	記述式問題	/ 0問
		伝統的な言語文化…	4 / 10問		
無解答率が10%以上の設問	4問	話すこと・聞くこと	0 / 1問	選択式問題	0 / 6問
		書くこと	0 / 2問	短答式問題	4 / 9問
		読むこと	0 / 2問	記述式問題	/ 0問
		伝統的な言語文化…	4 / 10問		

【無解答率とは】

児童・生徒が問題に取り組むのを断念し、何も解答しなかった割合です。その問題がねらいとしている内容を考えたり、書いたりすること自体を「難しい」「手に負えない」と感じていることが表れています。したがって、無解答率の高い問題では、解き方や考え方の習熟に課題があり、指導にいつもの丁寧さや工夫が求められるといえます。

* 主な設問別結果一覧

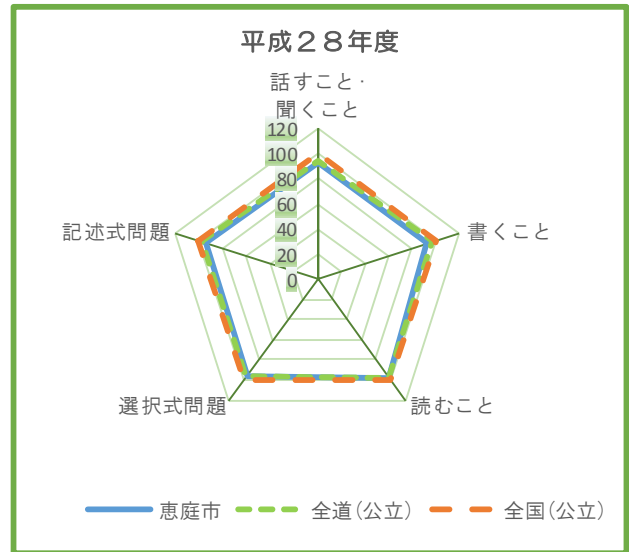
設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
★ 恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上下回った設問									
1-3	漢字を読む (むだを省くようにする)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	短答	○	81.0%	◆	78.3%	≡
1-3	漢字を書く (先生に <u>そう</u> だんする)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	短答	●	64.2%	▼	60.2%	◆
3	ルール説明の表現について助言した内容として適切なものを選択する	書き手の表現の仕方をよりよくするために助言する	書くこと	選択	●	67.4%	▼	62.7%	◆
7アイ	「永久」と毛筆で書いた(一)と(二)を書き直した際、注意した点として適切なものを選択する	用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決める	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択	○	81.2%	◆	79.7%	≡
8の3	ローマ字を読む (h y a k u)	ローマ字で表記されたものを正しく読む	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	短答	▪	50.7%	◆	46.7%	≡
★ 上記以外で、恵庭市の無解答率が10%以上になった設問									
1-2	漢字を書く (<u>した</u> しい友人と出かける)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	短答	○	73.8%	◆	71.1%	≡
8の1	ローマ字を書く (りんご)	平仮名で表記されたものをローマ字で書く	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	短答	●	53.2%	≡	50.9%	◇
8の2	ローマ字を書く (あさって)		伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	短答	▪	41.8%	◆	39.0%	≡
記号の意味		恵庭市の正答率が… ○80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下 比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≡同様 ◆やや下回る ▼下回る							

② 小学校 国語 B (主として「活用」に関する問題)

解答時間40分・設問数10問

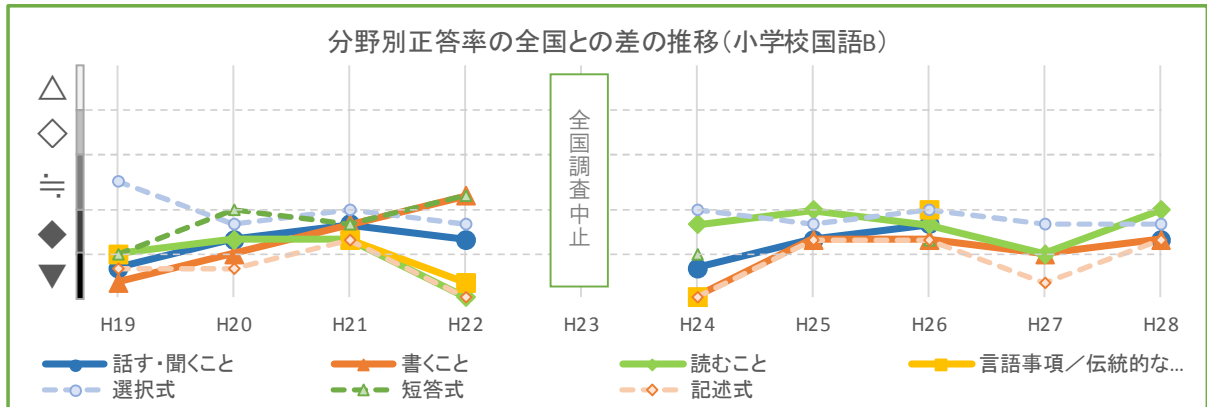
- 各領域等の平均正答率は、全国と比較して、「読むこと」で同様であるほかは、全ての領域等でやや下回っている。ただし、全国とのポイント差は全ての領域で前年度より縮小した。また、全道と比較すると、「書くこと」でやや下回っているほかは、全ての領域で同様である。
- 正答数が全国下位4分の1層の児童の割合は全国より5ポイント程度多い。
- 資料の目的を的確に捉えたり、二つの資料を比較して結びつける設問は比較的できていた。
- 話の展開を理解して「要点をまとめる」「次に質問すべきことを言葉にする」、資料を基に「目的に合わせて自分の考えを述べる」といった、情報の整理と主体的な判断を伴う記述式問題を解くことに課題があり、無解答率も高い。
- グラフの読み取りや、文章全体の構成の効果を正しく理解することにも課題がある。

*全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率(分野別レーダーチャート)



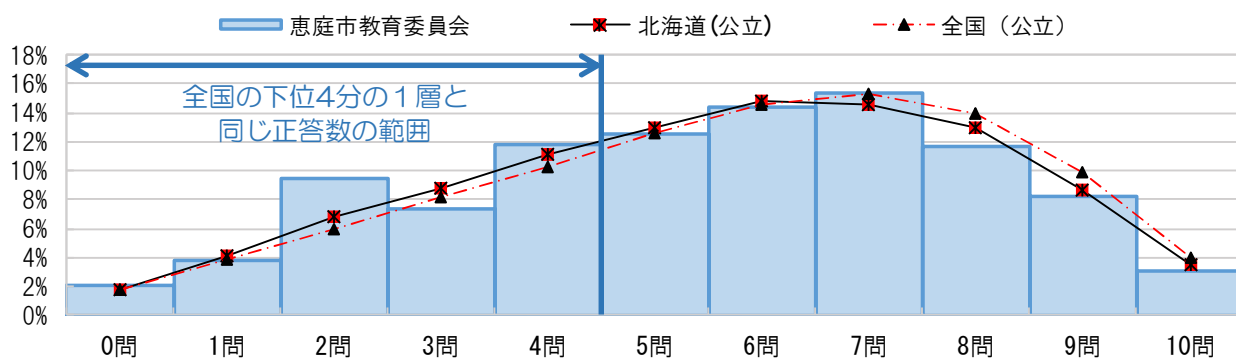
*小学校国語 B 分野別(領域・問題形式別)平均正答率の状況

		領域別正答率				伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	問題形式別正答率		
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	選択式問題		短答式問題	記述式問題	
H28 (今回)	恵庭市	●	●	○	本形式の問題なし	●	本形式の問題なし	●	
	国と比較	◆	◆	≒		◆		◆	
	全国(公立)	51.1%	53.4%	69.3%		59.9%		54.7%	
	道と比較	≒	◆	≒		≒		≒	
	全道(公立)	48.6%	51.5%	67.6%	58.0%	52.9%			
H27 (前回)	国と比較	問本形式なし	▼	◆	◆	≒	▼		
	道と比較	問本形式なし	◆	◆	≒	≒	◆		
記号の意味		恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下							
		比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≒同様 ◆やや下回る ▼下回る							



※全国とのポイント差を単純化した数値をもとに、各年度におけるおおよその傾向を表したグラフである。
 ※※「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」はH23まで「言語事項」。

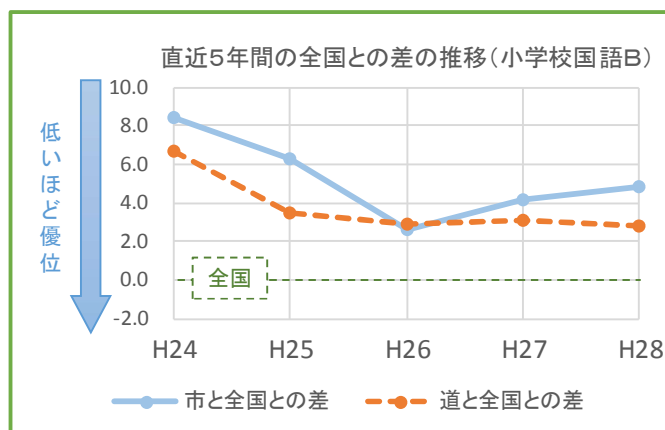
*平成28年度 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：児童全体に占める割合）



*全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
H28 (今回)	恵庭市 (前回比)	34.6% (+3.9)	4.8 (+0.6)
	全国 (前回比)	29.8% (+3.3)	
	全道 (前回比)	32.6% (+3.0)	2.8 (-0.3)
H27 (前回)	恵庭市	30.7%	4.2
	全国	26.5%	
	全道	29.6%	3.1

※割合は正答数ごとにまとまっており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる児童・生徒の割合を示している。



※比較元となる全国の割合が年度によって異なるため、年度間の単純比較はできないが、おおよその傾向が把握できる。

*恵庭市における設問別結果の概要

全10問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を 3ポイント以上上回った設問	なし				
全国の正答率を 3ポイント以上下回った設問	6問	話すこと・聞くこと	2 / 3問	選択式問題	3 / 6問
		書くこと	5 / 6問	短答式問題	/ 0問
		読むこと	1 / 3問	記述式問題	3 / 4問
		伝統的な言語文化...	/ 0問	※領域の重複する設問がある。	
無解答率が 10%以上の設問	3問	話すこと・聞くこと	1 / 3問	選択式問題	0 / 6問
		書くこと	3 / 6問	短答式問題	/ 0問
		読むこと	1 / 3問	記述式問題	3 / 4問
		伝統的な言語文化...	/ 0問	※領域の重複する設問がある。	

* 主な設問別結果一覧

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
★ 恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上下回った設問 【下位5問抜粋】									
1三	スーパーマーケットの店長へのインタビューメモを基にして、話の展開に沿った質問を書く	話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する	話すこと・聞くこと 書くこと	記述	■	50.4%	▼	47.0%	◆
						無解答率とその比較	11.2%	7.8%	+3.4
2一	「早ね早起き」活動の成果について、〈図1〉の結果を基に書いた内容として適切なものを選択する	グラフを基に、分かったことを的確に書く	書くこと	選択	■	43.4%	▼	41.2%	◆
						無解答率とその比較	1.6%	1.2%	+0.4
2二(2)	「早ね早起き」活動の課題に対する解決方法について、〈表2〉の結果を基に書く	目的や意図に応じて、表を基に、自分の考えを書く	書くこと	記述	○	64.2%	◆	62.3%	≡
						無解答率とその比較	11.7%	7.7%	+4.0
2三	「早ね早起き」活動の報告文で課題を取り上げた効果として適切なものを選択する	活動報告文において、課題を取り上げた効果を捉える	書くこと	選択	●	58.3%	◆	56.5%	◆
						無解答率とその比較	5.3%	4.2%	+1.1
3三	「パン職人」について、紹介したい内容をまとめて書く	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく	書くこと 読むこと	記述	■	52.9%	▼	50.9%	◆
						無解答率とその比較	17.1%	11.5%	+5.6

記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≡同様	◆やや下回る ▼下回る

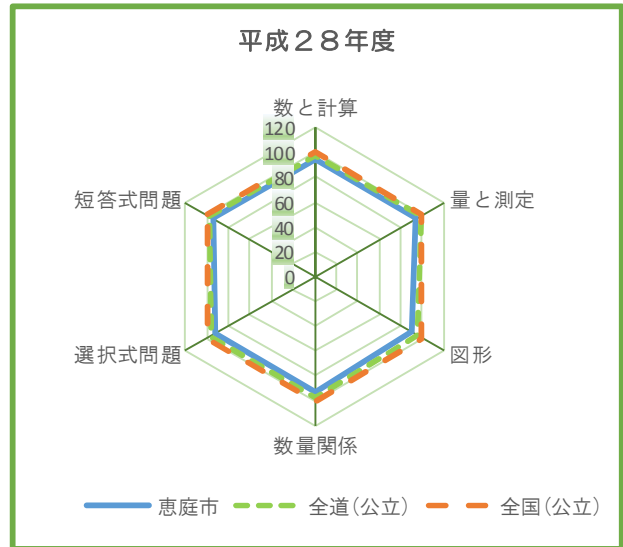


③ 小学校 算数 A (主として「知識」に関する問題)

解答時間20分・設問数16問

- 各領域等の平均正答率は、「図形」「選択式問題」で全国を下回り、それ以外の領域等も全国をやや下回っている。また、全道との比較でも「数と計算」以外の領域でやや下回っている。
- 正答数が全国下位4分の1層の児童の割合は全国より7ポイント近く多く、前年よりやや差が拡大した。
- 「数と計算」領域には正答率80%以上(記号◎)の相当できている設問が目立った。また、無解答率が10%を超えた設問はなかった。
- 直方体の面と面の位置関係を捉えることが苦手な児童が一定程度おり、垂直と平行を混同した誤答が全国と比べて10ポイント以上も多かった。また、1を超える割合を百分率で表す場合の基準量と比較量の関係の理解に課題がある。
- 小数が含まれた計算や、場面を読み取り式を作るなど、応用的要素のある設問で誤答が多くなる傾向があった。

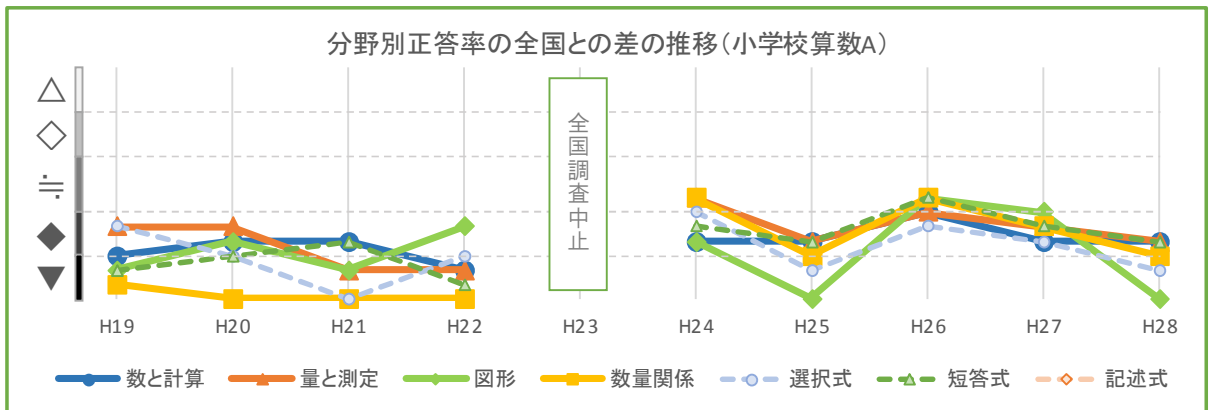
*全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率(分野別レーダーチャート)



*小学校算数 A 分野別(領域・問題形式別)平均正答率の状況

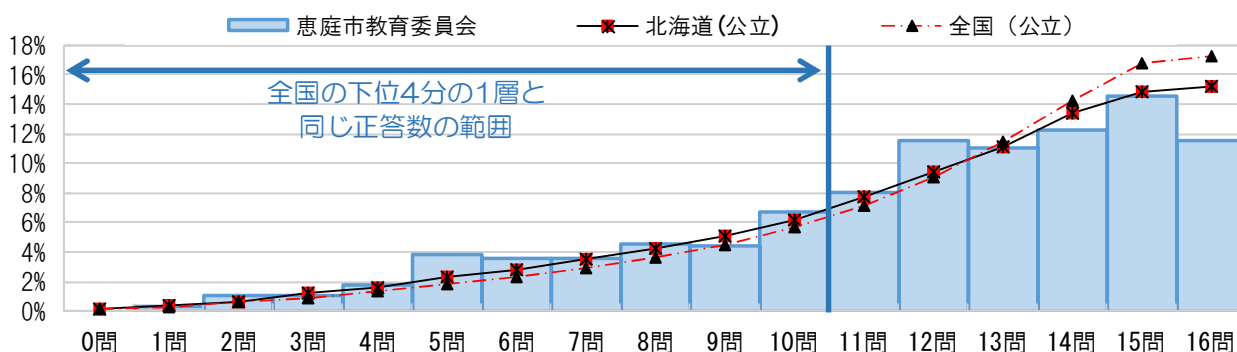
		領域別正答率				問題形式別正答率			
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	選択式問題	短答式問題	記述式問題	
H28 (今回)	恵庭市	◎	○	○	○	○	○		本形式の問題なし
	国と比較	◆	◆	▼	◆	▼	◆		
	全国(公立)	80.5%	77.0%	78.8%	68.5%	75.8%	78.5%		
	道と比較	≒	◆	◆	◆	◆	◆		
全道(公立)	77.9%	76.1%	75.0%	66.5%	73.0%	76.3%			
H27 (前回)	国と比較	◆	◆	≒	◆	◆	◆		
	道と比較	≒	≒	≒	≒	≒	≒		

記号の意味
 恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下
 比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≒同様 ◆やや下回る ▼下回る



※全国とのポイント差を単純化した数値をもとに、各年度におけるおおよその傾向を表したグラフである。

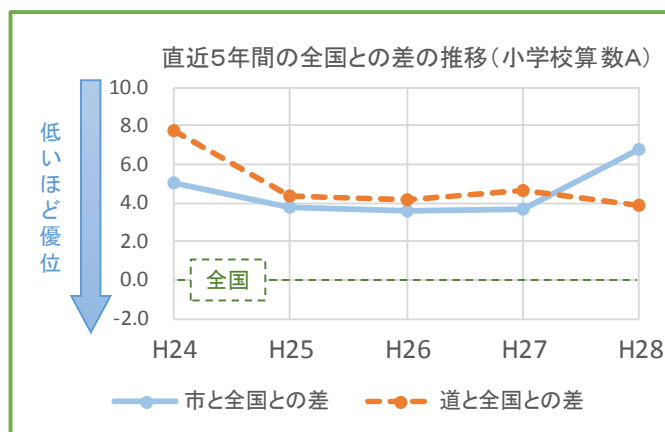
*平成28年度 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：児童全体に占める割合）



*全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
H28 (今回)	恵庭市 (前回比)	31.0% (+5.6)	6.8 (+3.1)
	全国 (前回比)	24.2% (+2.5)	
	全道 (前回比)	28.1% (+1.8)	3.9 (-0.7)
H27 (前回)	恵庭市	25.4%	3.7
	全国	21.7%	
	全道	26.3%	4.6

※割合は正答数ごとにまとまっており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる児童・生徒の割合を示している。



※比較元となる全国の割合が年度によって異なるため、年度間の単純比較はできないが、おおよその傾向が把握できる。

*恵庭市における設問別結果の概要

全16問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を3ポイント以上上回った設問	なし				
全国の正答率を3ポイント以上下回った設問	13問	数と計算	8 / 10問	選択式問題	4 / 5問
		量と測定	2 / 2問	短答式問題	9 / 11問
		図形	2 / 2問	記述式問題	/ 0問
		数量関係	2 / 3問	※領域の重複する設問がある。	
無解答率が10%以上の設問	なし				

* 主な設問別結果一覧

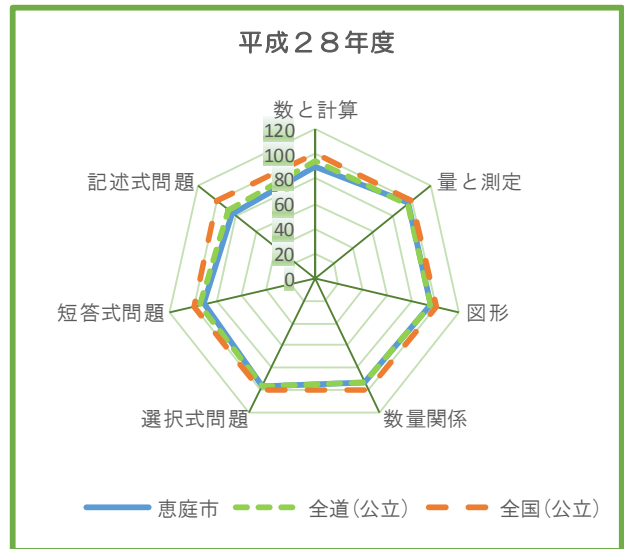
設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
★ 恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上下回った設問 【下位10問抜粋】									
1(1)	□÷0.8の商の大きさについて、正しいものを選ぶ	除数が1より小さいとき、商が被除数より大きくなることを理解している	数と計算	選択	●	64.8%	▼	61.1%	◆
						無解答率とその比較	0.8%	1.3%	-0.5
1(2)	2.1÷0.7を、除数が整数になるように工夫して計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く	除数と被除数に同じ数をかけても商は変わらないことを理解している	数と計算	短答	○	68.5%	◆	64.6%	≡
						無解答率とその比較	0.0%	0.4%	-0.4
2(2)	4.65+0.3を計算する	末尾の位のそろっていない小数の加法の計算をすることができる	数と計算	短答	○	77.1%	◆	76.7%	◆
						無解答率とその比較	0.7%	0.5%	+0.2
2(3)	18÷0.9を計算する	小数の除法の計算をすることができる	数と計算	短答	○	77.7%	▼	72.7%	≡
						無解答率とその比較	1.6%	1.1%	+0.5
2(4)	(2/9)×3を計算する	乗数が整数である場合の分数の乗法の計算をし、約分することができる	数と計算	短答	◎	87.0%	◆	82.6%	≡
						無解答率とその比較	3.0%	1.9%	+1.1
3(2)	7.1, 7, 7.01の中で一番小さい数と、一番大きい数を書く	数の大小関係を理解している	数と計算	短答	○	74.1%	▼	71.6%	◆
						無解答率とその比較	0.5%	0.4%	+0.1
4	8m ² に14人座っているシートについて、1m ² 当たりの人数を求める式を書く	単位量当たりの大きさの求め方を理解している	量と測定	短答	○	72.0%	▼	72.2%	▼
						無解答率とその比較	5.4%	4.3%	+1.1
7	直方体において、示された面に垂直な面を選ぶ	直方体における面と面の位置関係を理解している	図形	選択	○	78.0%	▼	71.3%	▼
						無解答率とその比較	3.9%	2.5%	+1.4
9(1)	前に10人、後ろに19人並んでいることを基に、列に並んでいる全体の人数を求める式と答えを書く	示された場面を適切に読み取り、全体の人数を求める式に表すことができる	数と計算 数量関係	短答	○	80.2%	▼	76.8%	◆
						無解答率とその比較	5.9%	4.2%	+1.7
9(2)	定員と乗っている人数の割合を、百分率を用いた図に表すとき、当てはまる数値の組み合わせを書く	1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解している	数量関係	短答	▪	50.9%	▼	48.7%	▼
						無解答率とその比較	7.2%	5.7%	+1.5
記号の意味	恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下 比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≡同様 ◆やや下回る ▼下回る								

④ 小学校 算数 B (主として「活用」に関する問題)

解答時間40分・設問数13問

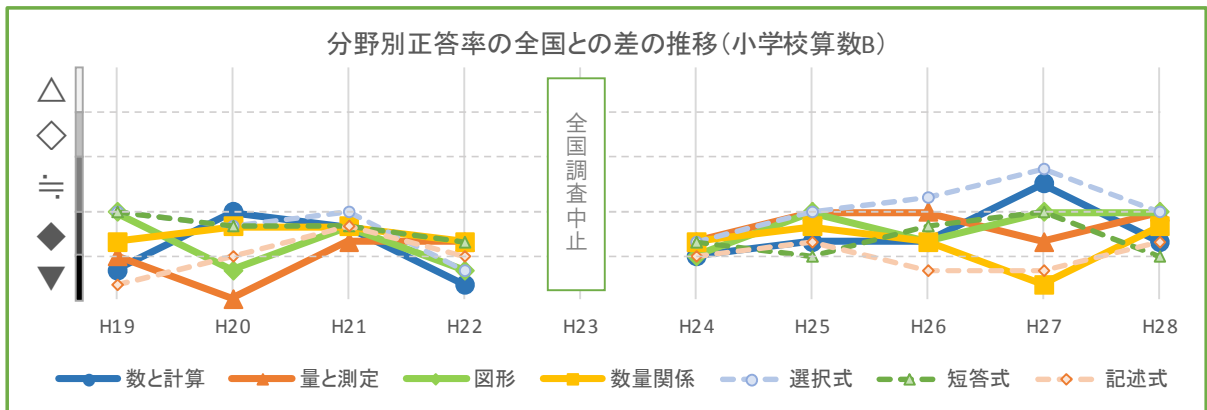
- 各領域等の平均正答率は、「短答式問題」で全国より下回り、「量と測定」「図形」で全国と同様、それ以外の領域等で全国よりやや下回った。また、全ての領域等で全道と同様である。全国とのポイント差自体は、「数と計算」「短答式問題」以外で前年度より縮小している。
- 正答数が全国下位4分の1層の児童の割合は、全国より4.7ポイント多い。
- 具体例の中で示された条件を他の数式に適切にあてはめて検討する設問は相当できていた。
- 問題の場面を表した図と関連付けて式を作って計算すること、示された除法の式の意味を解釈することなどに誤答が多くなる傾向がある。
- 記述式問題で無解答率が高く、数式を用いたり、グラフを比較した違いに着目する等、「数学的思考方」や「資料の読み取り」の力を生かして書くことに課題がある。

*全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率(分野別レーダーチャート)



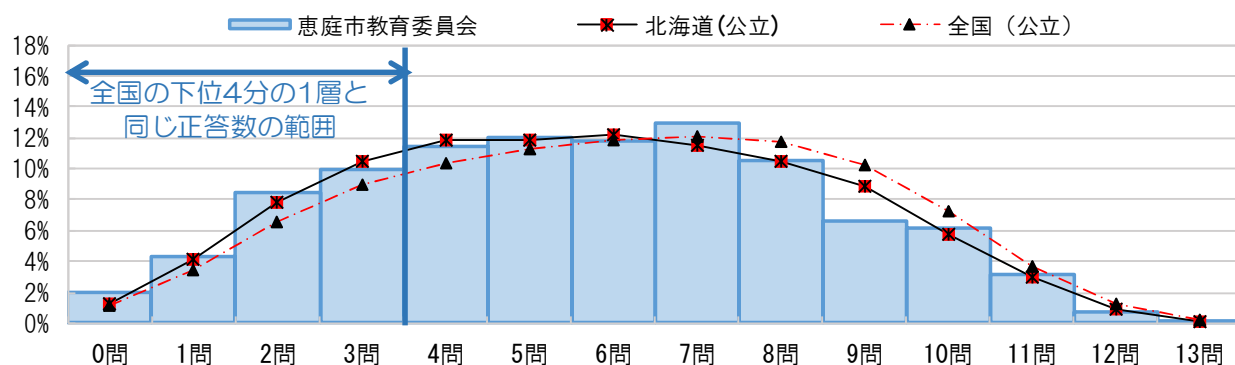
*小学校算数 B 分野別(領域・問題形式別)平均正答率の状況

		領域別正答率				問題形式別正答率		
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	選択式問題	短答式問題	記述式問題
H28 (今回)	恵庭市	・	・	・	・	●	○	・
	国と比較	◆	≡	≡	◆	◆	▼	◆
	全国(公立)	44.4%	43.7%	36.3%	42.9%	56.7%	66.4%	26.2%
	道と比較	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡
	全道(公立)	41.7%	42.0%	35.1%	39.9%	54.7%	62.9%	23.2%
H27 (前回)	国と比較	≡	◆	≡	▼	≡	◆	▼
	道と比較	≡	≡	≡	≡	≡	≡	◆
記号の意味		恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下						
		比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≡同様 ◆やや下回る ▼下回る						



※全国とのポイント差を単純化した数値をもとに、各年度におけるおおよその傾向を表したグラフである。

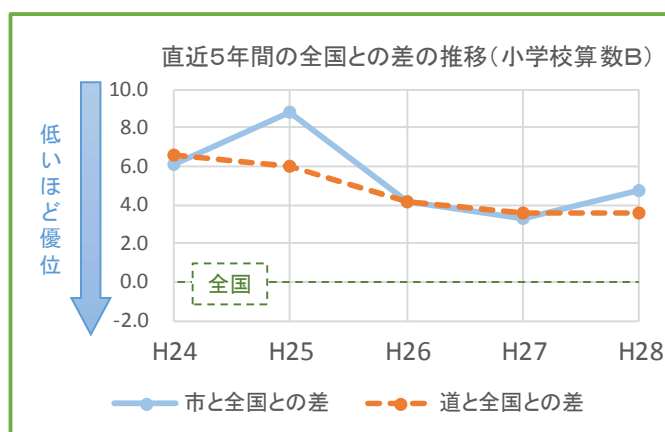
*平成28年度 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：児童全体に占める割合）



*全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
H28 (今回)	恵庭市 (前回比)	24.7% (-3.8)	4.7 (+1.4)
	全国 (前回比)	20.0% (-5.2)	
	全道 (前回比)	23.6% (-5.2)	3.6 (-0.0)
H27 (前回)	恵庭市	28.5%	3.3
	全国	25.2%	
	全道	28.8%	3.6

※割合は正答数ごとにまとまっており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる児童・生徒の割合を示している。



※比較元となる全国の割合が年度によって異なるため、年度間の単純比較はできないが、おおよその傾向が把握できる。

*恵庭市における設問別結果の概要

全13問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を3ポイント以上上回った設問	なし				
全国の正答率を3ポイント以上下回った設問	7問	数と計算	4 / 6問	選択式問題	2 / 5問
		量と測定	1 / 5問	短答式問題	2 / 3問
		図形	0 / 3問	記述式問題	3 / 5問
		数量関係	2 / 6問	※領域の重複する設問がある。	
無解答率が10%以上の設問	5問	数と計算	3 / 6問	選択式問題	1 / 5問
		量と測定	2 / 5問	短答式問題	0 / 3問
		図形	2 / 3問	記述式問題	4 / 5問
		数量関係	2 / 6問	※領域の重複する設問がある。	

* 主な設問別結果一覧

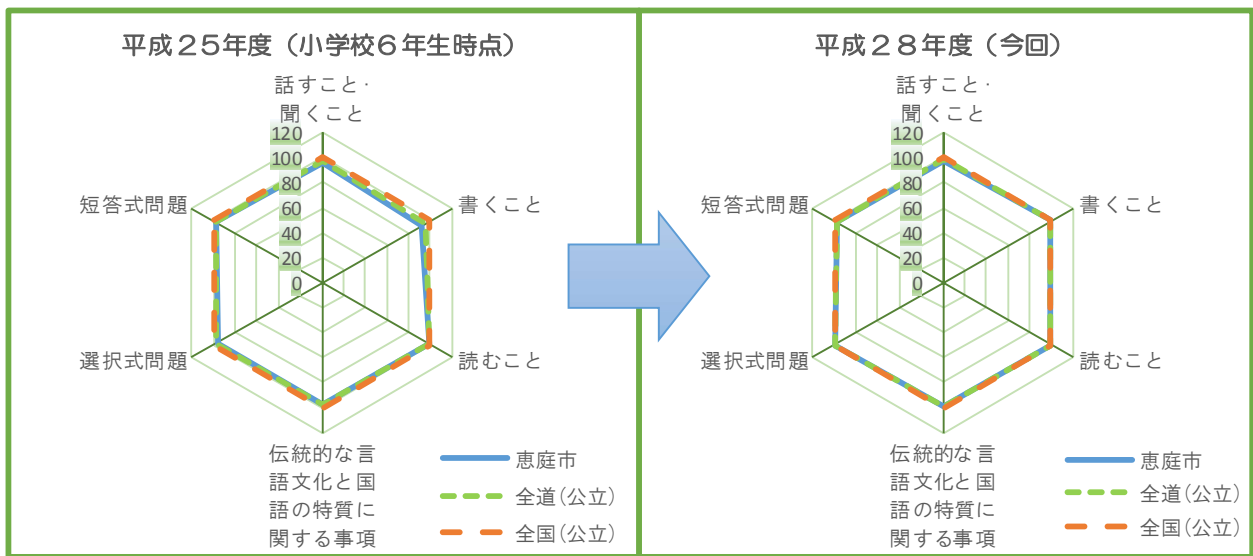
設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市 正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
★ 恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上下回った設問 【下位5問抜粋】									
1(2)	正方形の縦の長さを2cm短くし、横の長さを2cm長くすると面積が 4cm^2 小さくなることの説明を書く	示された説明を解釈し、用いられている考えを別の場面に適用して、その説明を記述できる	量と測定	記述	■	45.2%	▼	40.2%	≡
						無解答率とその比較	5.7%	4.0%	+1.7
2(1)	ハードルとハードルの間が5mのコースの、スタート地点から4台目のハードルを、巻き尺の何mのところの置けばよいか書く	ハードルの数とインターバルの数の関係を式に表し、4台目のハードルの位置を求めることができる	数量関係	短答	■	56.2%	▼	50.9%	◆
						無解答率とその比較	5.3%	3.1%	+2.2
2(2)	40mハードル走の目標のタイムを求める式に8.1と4を当てはめて、まなみさんの目標のタイムを求める式と答えを書く	示された式に数値を当てはめて、目標のタイムを求めることができる	数と計算 数量関係	短答	■	50.5%	◆	46.1%	≡
						無解答率とその比較	5.9%	4.2%	+1.7
3(1)	三つの式について、それぞれの式が何を計算しているかの説明文を選ぶ	乗法や除法の式の意味を解釈することができる	数と計算	選択	●	62.6%	▼	58.9%	◆
						無解答率とその比較	0.8%	1.0%	-0.2
3(2)	縦39cm、横54cmの長方形の厚紙から、1辺9cmの正方形を24個切り取ることができるわけを書く	縦にかくことができる正方形の数を求め、24個の正方形をかくことができる理由を記述できる	数と計算	記述	■	38.4%	▼	34.1%	◆
						無解答率とその比較	27.4%	17.4%	+10.0
★ 上記以外で、恵庭市の無解答率が10%以上になった設問									
2(3)	目標のタイムを求める式の中の0.4や0.3が表す意味を書く	示された式の中の数値の意味を解釈し、それを記述できる	数と計算	記述	■	15.6%	◆	13.6%	≡
						無解答率とその比較	26.4%	18.6%	+7.8
4(3)	A小学校とB小学校の図書委員が表したグラフを見比べて読みとった内容として示された事柄が正しくないわけを書く	グラフから貸出冊数を読み取り、それを根拠に、示された事柄が正しくない理由を記述できる	数量関係	記述	■	24.9%	◆	22.7%	≡
						無解答率とその比較	19.7%	13.2%	+6.5
5(1)	示された形をつくることができることを説明する式の意味を、数や演算の表す内容に着目して書く	示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述できる	数と計算、量と測定 図形、数量関係	記述	■	6.9%	◆	5.4%	≡
						無解答率とその比較	28.6%	18.7%	+9.9
5(2)	示された四角形を並べてできる図形を選ぶ	図形を構成する角の大きさを基に、四角形を並べてできる形を判断することができる	量と測定 図形	選択	■	25.4%	≡	25.6%	≡
						無解答率とその比較	10.7%	8.9%	+1.8
記号の意味		恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下 比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≡同様 ◆やや下回る ▼下回る							

⑤ 中学校 国語A (主として「知識」に関する問題)

解答時間45分・設問数33問

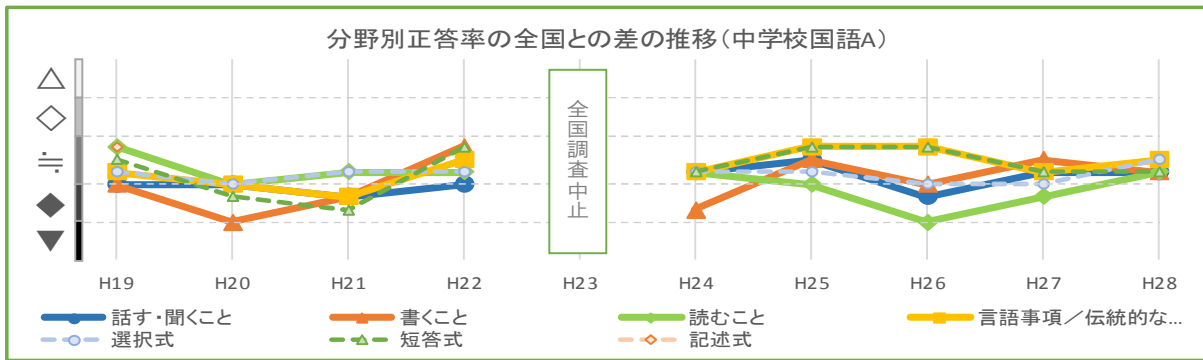
- 各領域の平均正答率は、全ての領域で60%~80%の範囲にあり、全国・全道と同様。「話すこと・聞くこと」「短答式問題」を除き、全国とのポイント差はほぼなく、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、ごくわずかだが全道より上位にある。基礎的知識の定着は一定程度できている。
- 平成25年度(小学校6年生時点)と比較して、「書くこと」「選択式問題」を中心に全ての領域等で全国との平均正答率のポイント差が縮まっている。
- 正答数が全国下位4分の1層の生徒の割合は全国より0~2ポイント多い範囲で推移しており、今回は前年度より全国とのポイント差がやや縮小した。
- 奥付や辞書などの短い記述から情報を得ることは比較的得意とする一方、一定の量がある文章の意図や、文脈における言葉の意味、文の使い方の差異などを読み解く設問でやや誤答が多い。また、一部の漢字の読み書き設問で誤答や無解答が多く、丁寧な復習が必要であると思われる。

* 全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率(分野別レーダーチャート)



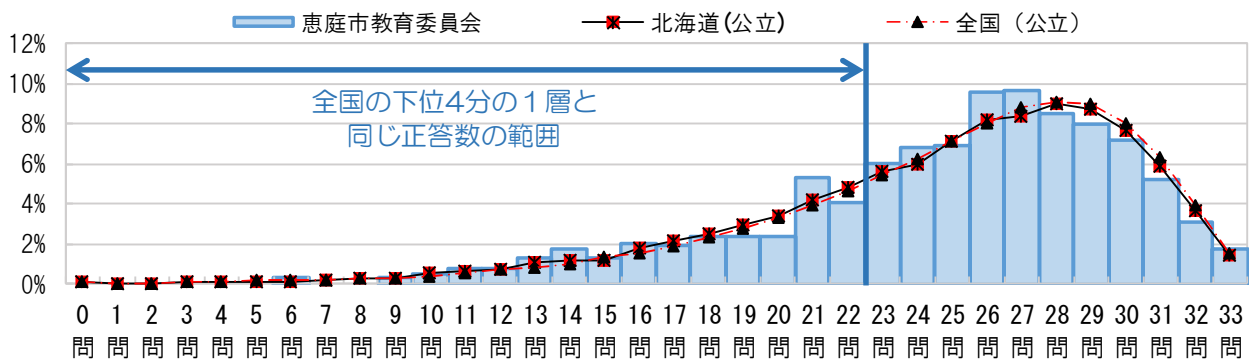
* 中学校国語A 分野別(領域・問題形式別)平均正答率の状況

		領域別正答率				問題形式別正答率		
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択式問題	短答式問題	記述式問題
H28 (今回)	恵庭市	○	○	○	○	○	○	本形式の問題なし
	国と比較	≒	≒	≒	≒	≒	≒	
	全国(公立)	78.9%	73.7%	78.6%	73.9%	73.5%	80.5%	
	道と比較	≒	≒	≒	≒	≒	≒	
	全道(公立)	78.1%	73.3%	78.1%	73.3%	73.2%	79.3%	
H27 (前回)	国と比較	≒	≒	◆	≒	≒	≒	
	道と比較	≒	≒	◆	≒	≒	≒	
記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上		○60%~79%		●50%~59%		・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≒同様	◆やや下回る	▼下回る		



※全国とのポイント差を単純化した数値をもとに、各年度における**おおよその傾向**を表したグラフである。
 ※※「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」はH23まで「言語事項」。

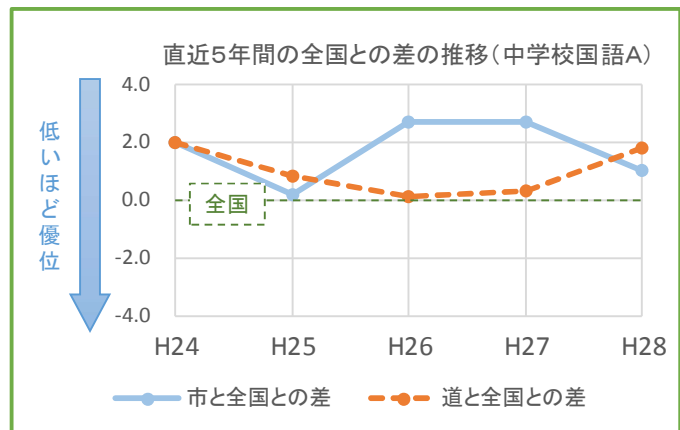
＊平成28年度 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：生徒全体に占める割合）



＊全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)	
H28 (今回)	恵庭市 (前回比)	27.5% (+1.8)	1.0 (-1.7)	
	全国 (前回比)	26.5% (+3.5)		
	全道 (前回比)	28.3% (+5.0)	1.8 (+1.5)	
H27 (前回)	恵庭市	25.7%	2.7	
	全国	23.0%		
		全道	23.3%	0.3

※割合は正答数ごとにまとまっており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる児童・生徒の割合を示している。



※比較元となる全国の割合が年度によって異なるため、年度間の単純比較はできないが、おおよその傾向が把握できる。

＊恵庭市における設問別結果の概要

全33問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を 3ポイント以上上回った設問	2問	話すこと・聞くこと	0 / 6問	選択式問題	2 / 23問
		書くこと	0 / 4問	短答式問題	0 / 10問
		読むこと	1 / 6問	記述式問題	/ 0問
		伝統的な言語文化...	1 / 17問		
全国の正答率を 3ポイント以上下回った設問	5問	話すこと・聞くこと	1 / 6問	選択式問題	4 / 23問
		書くこと	1 / 4問	短答式問題	1 / 10問
		読むこと	2 / 6問	記述式問題	/ 0問
		伝統的な言語文化...	1 / 17問		
無解答率が 10%以上の設問	1問	話すこと・聞くこと	0 / 6問	選択式問題	0 / 23問
		書くこと	0 / 4問	短答式問題	1 / 10問
		読むこと	0 / 6問	記述式問題	/ 0問
		伝統的な言語文化...	1 / 17問		

* 主な設問別結果一覧

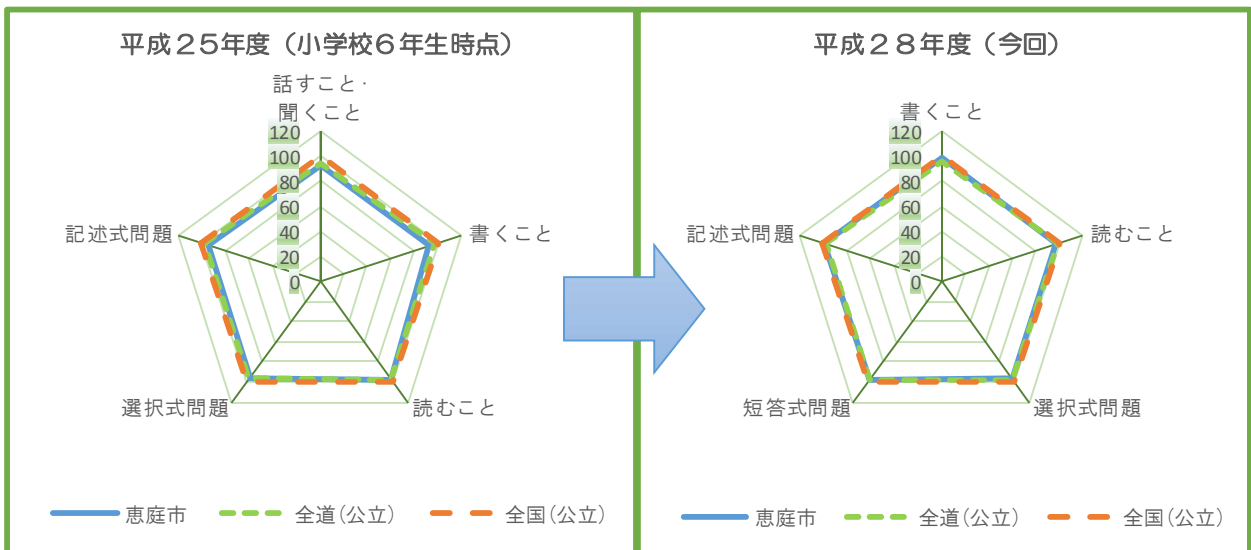
設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上上回った設問									
8二	資料集を活用するときの留意点を説明したものととして適切なものを選択する	奥付を使って本についての情報を得る	読むこと	選択	○	62.4%	◇	63.5%	◇
					無解答率とその比較	1.9%	1.6%	+0.3	1.4%
9四ア	漢和辞典の「意味」の中から、「賛美」の「美」の意味として適切なものを選択する	辞書を活用し、漢字が表している意味を正しく捉える	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択	○	60.3%	△	62.7%	◇
					無解答率とその比較	0.8%	1.0%	-0.2	1.0%
★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上下回った設問									
1一	聞き手をどのように想定して話しているのかを説明したものととして適切なものを選択する	聞き手の立場を想定し、話の中心的な部分と付加的な部分との関係に注意して話す	話すこと・聞くこと	選択	○	80.7%	◆	78.5%	≡
					無解答率とその比較	0.0%	0.1%	-0.1	0.1%
3一	「ライスカレーの名に値する」の意味として適切なものを選択する	文脈の中における語句の意味を理解する	読むこと	選択	◎	84.7%	◆	83.7%	◆
					無解答率とその比較	0.0%	0.2%	-0.2	0.2%
3二	「私」にとってのライスカレーを説明したものととして適切なものを選択する	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する	読むこと	選択	◎	90.0%	◆	89.1%	◆
					無解答率とその比較	0.2%	0.2%	0.0	0.2%
4一	答えの文章を直した意図として適切なものを選択する	文章を読み返し、文の使い方などに注意して書く	書くこと	選択	○	64.7%	◆	65.0%	◆
					無解答率とその比較	0.6%	0.6%	0.0	0.4%
9二3	漢字を読む(目上の人を敬う)	文脈に即して漢字を正しく読む	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	短答	○	82.6%	▼	79.6%	▼
					無解答率とその比較	6.9%	4.8%	+2.1	5.5%
★上記以外で、恵庭市の無解答率が10%以上になった設問									
9一2	漢字を書く(今までにないドクソウ的な考えだ)	文脈に即して漢字を正しく書く	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	短答	▪	26.1%	≡	25.2%	≡
					無解答率とその比較	10.0%	11.4%	-1.4	10.8%
記号の意味		恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下 比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≡同様 ◆やや下回る ▼下回る							

⑥ 中学校 国語 B (主として「活用」に関する問題)

解答時間45分・設問数9問

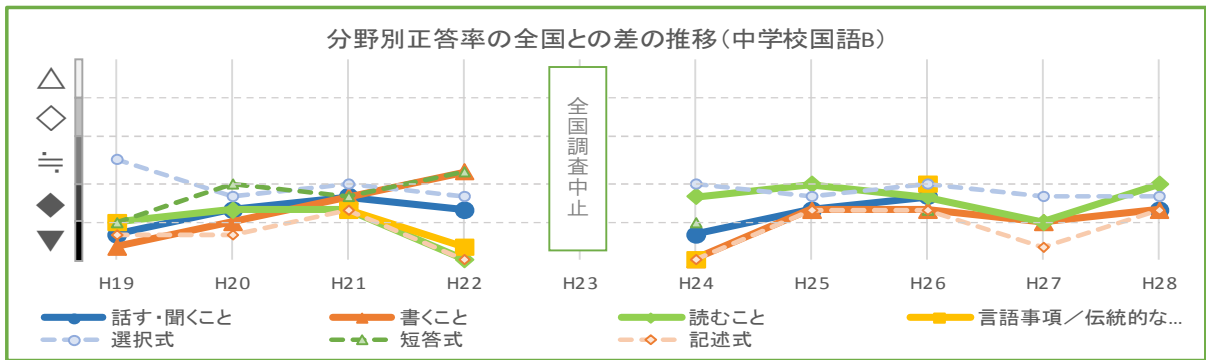
- 各領域等の平均正答率は、「読むこと」「選択式問題」で全国をやや下回っているものの、全国より3ポイントを超えて下回った領域等はなく、全道とはほぼ同様の状況である。「書くこと」「記述式問題」では、全道より上位にある。
- 平成25年度(小学校6年生時点)と比較して、「読むこと」以外の領域等で、特に「書くこと」「記述式問題」を中心に全国との平均正答率のポイント差が縮まっている。
- 正答数が全国下位4分の1層の生徒の割合については、前年度より全国・全道とのポイント差がやや縮小した。
- 課題を決めて学校図書館で情報収集する方法を記述する設問(2三)の正答率が全国・全道より高かった。一方、文章を読み分けて要旨を捉えたり、構成を理解する必要のある設問で誤答が多い傾向がある。また、文書や資料から取り出した必要な情報を、根拠として整理して自分の考えを書く設問で無解答が多く、正答率を下げている。「文章の読解」「考えたことの記述」の双方に課題があると考えられる。

*全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率(分野別レーダーチャート)



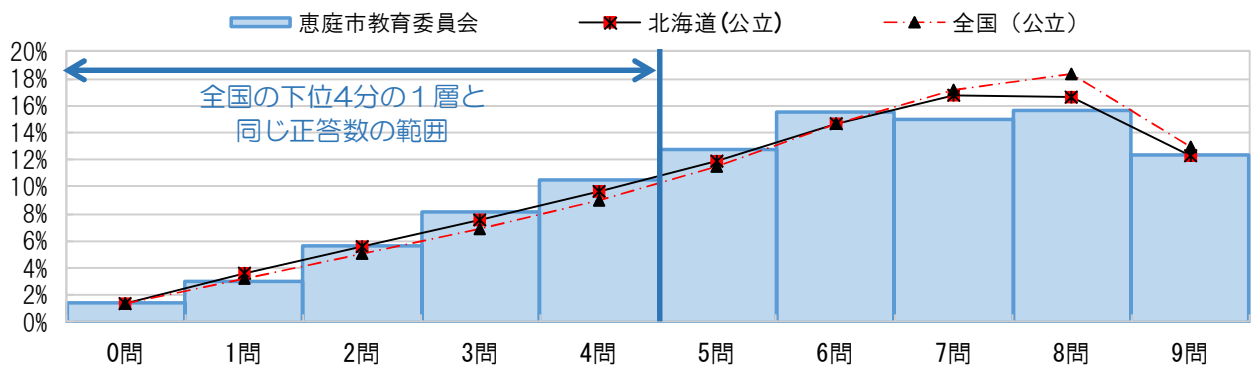
*中学校国語 B 分野別(領域・問題形式別)平均正答率の状況

		領域別正答率				問題形式別正答率		
		話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化 と国語の特質に 関する事項	選択式問題	短答式問題	記述式問題
H28 (今回)	恵庭市	本形式の問題なし	●	○	本形式の問題なし	○	○	●
	国と比較		≒	◆		◆	≒	≒
	全国(公立)		58.3%	66.5%		70.6%	71.1%	58.3%
	道と比較		≒	≒		≒	≒	≒
	全道(公立)	56.1%	65.0%	69.3%	69.8%	56.1%		
H27 (前回)	国と比較	≒	◆	◆	◆	問題形式なし	◆	
	道と比較	≒	◆	◆	◆	問題形式なし	◆	
記号の意味		恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下 比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≒同様 ◆やや下回る ▼下回る						



※全国とのポイント差を単純化した数値をもとに、各年度における**おおよその傾向**を表したグラフである。
 ※※「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」はH23まで「言語事項」。

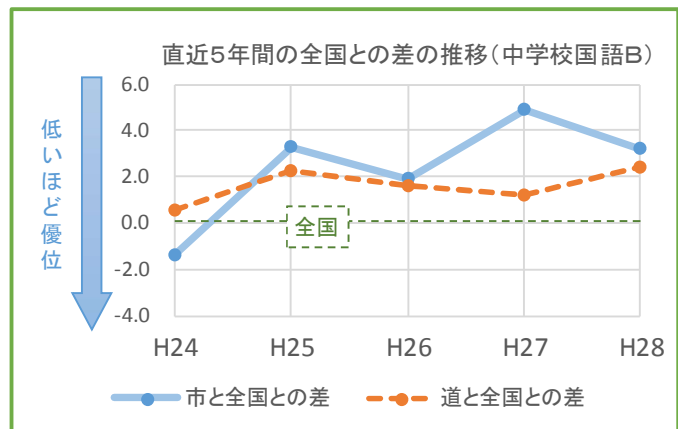
＊平成28年度 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：生徒全体に占める割合）



＊全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
H28 (今回)	恵庭市 (前回は)	28.6% (+3.0)	3.2 (-1.7)
	全国 (前回は)	25.4% (+4.7)	
	全道 (前回は)	27.8% (+5.9)	2.4 (+1.2)
H27 (前回は)	恵庭市	25.6%	4.9
	全国	20.7%	
	全道	21.9%	1.2

※割合は正答数ごとにまとまっており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる児童・生徒の割合を示している。



※比較元となる全国の割合が年度によって異なるため、年度間の単純比較はできないが、おおよその傾向が把握できる。

＊恵庭市における設問別結果の概要

全9問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を3ポイント以上上回った設問	1問	話すこと・聞くこと	/ 0問	選択式問題	0 / 5問
		書くこと	1 / 3問	短答式問題	0 / 1問
		読むこと	1 / 9問	記述式問題	1 / 3問
		伝統的な言語文化...	/ 0問	※領域の重複する設問がある。	
全国の正答率を3ポイント以上下回った設問	4問	話すこと・聞くこと	/ 0問	選択式問題	3 / 5問
		書くこと	1 / 3問	短答式問題	0 / 1問
		読むこと	4 / 9問	記述式問題	1 / 3問
		伝統的な言語文化...	/ 0問	※領域の重複する設問がある。	
無解答率が10%以上の設問	1問	話すこと・聞くこと	/ 0問	選択式問題	0 / 5問
		書くこと	1 / 3問	短答式問題	0 / 1問
		読むこと	1 / 9問	記述式問題	1 / 3問
		伝統的な言語文化...	/ 0問	※領域の重複する設問がある。	

* 主な設問別結果一覧

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)													
						正答率	比較	正答率	比較												
★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上上回った設問																					
2三	宇宙エレベーターについて疑問に思ったことと、それを調べるために必要な本の探し方を書く	課題を決め、それに 応じた情報の収集方法 を考える	書くこと 読むこと	記述	●	49.2%	◇	50.1%	◇												
										無解答率とその比較	7.2%	6.0%	+1.2	7.3%	-0.1						
★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上下回った設問																					
1一	ちらしの表と裏から分かる「暮らしの中の伝統文化展」が開かれるねらいとして適切なものを選択する	文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、要旨を捉える	読むこと	選択	○	76.2%	◆	75.4%	◆												
										無解答率とその比較	0.2%	0.2%	0.0	0.1%	+0.1						
2一	雑誌の記事の説明として適切なものを選択する	文章の構成を捉える	読むこと	選択	○	64.9%	◆	64.3%	◆												
										無解答率とその比較	0.0%	0.2%	-0.2	0.2%	-0.2						
2二	情報カードにまとめる内容として適切なものを選択する	目的に応じて文章を要約する	読むこと	選択	○	64.0%	◆	62.4%	≡												
										無解答率とその比較	0.0%	0.3%	-0.3	0.2%	-0.2						
3三	図鑑の説明を読むことで、よく分かるようになった物語の部分と、その部分についてどのようなことが分かったのかを書く	本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く	書くこと 読むこと	記述	●	57.7%	▼	52.5%	≡												
										無解答率とその比較	28.3%	22.8%	+5.5	28.5%	-0.2						
<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">記号の意味</td> <td>恵庭市の正答率が…</td> <td>◎80%以上</td> <td>○60%~79%</td> <td>●50%~59%</td> <td>・49%以下</td> </tr> <tr> <td>比較先よりも平均正答率が…</td> <td>△上回る</td> <td>◇やや上回る</td> <td>≡同様</td> <td>◆やや下回る</td> <td>▼下回る</td> </tr> </table>										記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≡同様	◆やや下回る	▼下回る
記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下																
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≡同様	◆やや下回る	▼下回る															

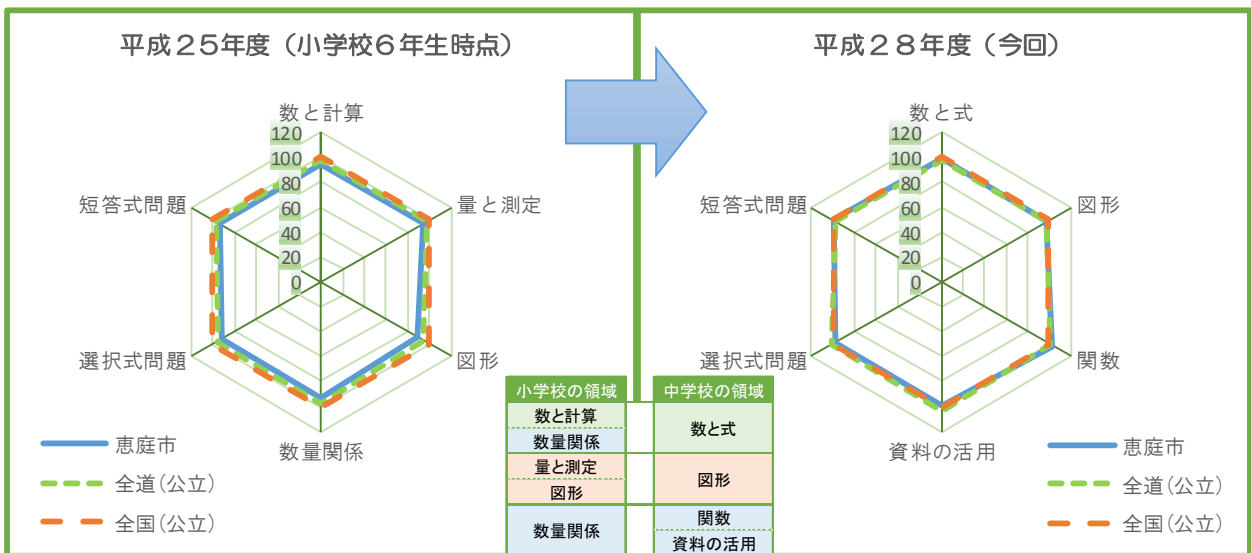


⑦ 中学校 数学 A (主として「知識」に関する問題)

解答時間45分・設問数36問

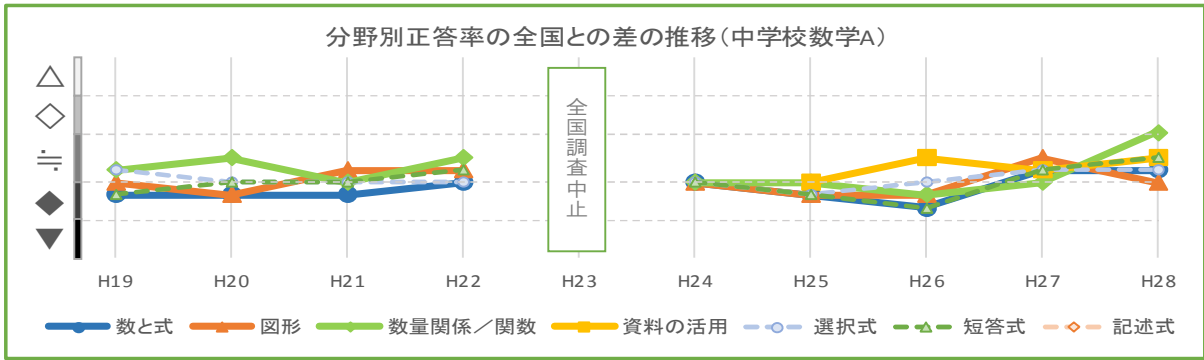
- 各領域等の平均正答率は、「図形」で全国をやや下回り、「資料の活用」「選択式問題」で全道をやや下回っているものの、全国より3ポイントを超えて下回った領域等はない。「関数」では、全国・全道より上位にあり、「数と式」「短答式問題」では全道より上位にある。
- 平成25年度(小学校6年生時点)では、全ての領域で全国より平均正答率が下回った、又はやや下回った状況だったが、今回は全般的に全国とのポイント差が縮小したことが分かる。
- 正答数が全国下位4分の1層の生徒の割合については、前年度と逆転して全国より多くなったものの、ポイント差は1ポイント未満でほぼ同様といえる。
- 無解答率10%以上の設問10問のうち5問が「関数」領域であるが、このうち3問が全国より3ポイント以上正答率が高く、無解答率自体も全国より低い。比例における増加量、一次関数の変化の割合、グラフから求める変域などを着実に身につけた生徒が比較的多いものと思われる。
- 基本的な文字式・方程式などの計算や、平面図形の性質を問う設問は比較的よくできている一方、空間図形における直線・角の性質、体積の求め方、反比例の性質などの基本的知識の定着や、数量の関係を文字式や関数の知識を用いて表現することに課題があると思われる。

*全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率(分野別レーダーチャート)



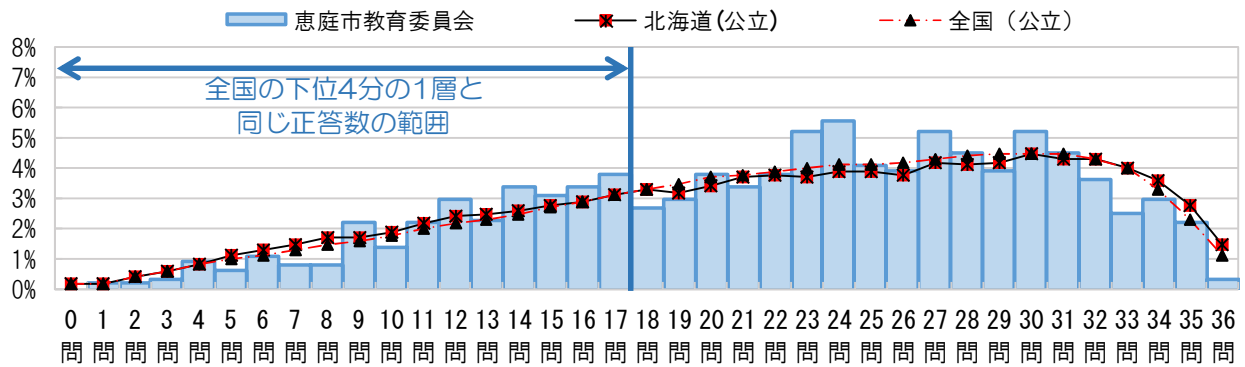
*中学校数学 A 分野別(領域・問題形式別)平均正答率の状況

		領域別正答率				問題形式別正答率			
		数と式	図形	関数	資料の活用	選択式問題	短答式問題	記述式問題	
H28 (今回)	恵庭市	○	○	●	●	●	○	本形式の問題なし	
	国と比較	≒	◆	≒	≒	≒	≒		
	全国(公立)	65.9%	67.1%	52.0%	56.5%	57.8%	64.6%		
	道と比較	≒	≒	≒	◆	◆	≒		
H27 (前回)	全国(公立)	64.7%	66.0%	52.7%	58.7%	58.6%	63.6%		
	国と比較	≒	≒	≒	≒	≒	≒		
記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上		○60%~79%		●50%~59%		・49%以下	
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≒同様	◆やや下回る	▼下回る			



※全国とのポイント差を単純化した数値をもとに、各年度における**おおよその傾向**を表したグラフである。
 ※「関数」はH24まで「数量関係」、「資料の活用」はH25新設。

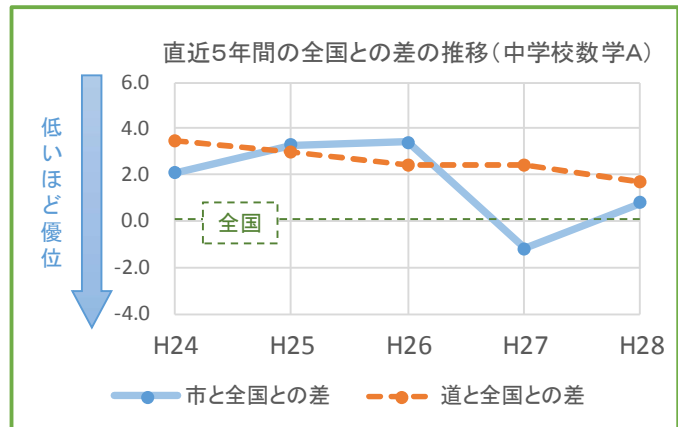
＊平成28年度 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：生徒全体に占める割合）



＊全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
H28 (今回)	恵庭市 (前回比)	25.9% (+2.4)	0.8 (+2.0)
	全国 (前回比)	25.1% (+0.4)	
	全道 (前回比)	26.8% (-0.3)	1.7 (-0.7)
H27 (前回)	恵庭市	23.5%	-1.2
	全国	24.7%	
	全道	27.1%	2.4

※割合は正答数ごとにまとまっており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる児童・生徒の割合を示している。



※比較元となる全国の割合が年度によって異なるため、年度間の単純比較はできないが、おおよその傾向が把握できる。

＊恵庭市における設問別結果の概要

全36問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を 3ポイント以上上回った設問	9問	数と式	3 / 12問	選択式問題	3 / 13問
		図形	2 / 12問	短答式問題	6 / 23問
		関数	3 / 8問	記述式問題	0 / 0問
		資料の活用	1 / 4問		
全国の正答率を 3ポイント以上下回った設問	8問	数と式	3 / 12問	選択式問題	3 / 13問
		図形	3 / 12問	短答式問題	5 / 23問
		関数	2 / 8問	記述式問題	0 / 0問
		資料の活用	0 / 4問		
無解答率が 10%以上の設問	10問	数と式	2 / 12問	選択式問題	0 / 13問
		図形	2 / 12問	短答式問題	10 / 23問
		関数	5 / 8問	記述式問題	0 / 0問
		資料の活用	1 / 4問		

* 主な設問別結果一覧

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市 正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上上回った設問 【上位5問抜粋】									
1(2)	-5, 0, 1, 2.5, 4の中から自然数を全て選ぶ	自然数の意味を理解している	数と式	選択	■	40.6%	◇	40.1%	◇
					無解答率とその比較	0.2%	0.2%	0.0	0.2%
2(2)	$(2x+5y)+3(x-2y)$ を計算する	整式の加法と減法の計算ができる	数と式	短答	◎	84.0%	◇	83.5%	◇
					無解答率とその比較	1.3%	2.5%	-1.2	2.6%
7(3)	図形に成り立つ性質の逆の事柄を完成する	命題の逆を理解している	図形	短答	○	72.3%	◇	72.0%	△
					無解答率とその比較	6.1%	7.7%	-1.6	8.5%
9(2)	比例 $y=2x$ について、 x の値が1から4まで増加したときの y の増加量を求める	比例の式について、 x の値の増加に伴う y の増加量を求めることができる	関数	短答	●	39.4%	△	45.2%	△
					無解答率とその比較	10.3%	12.1%	-1.8	12.9%
10(2)	一次関数の式から変化の割合を求める	一次関数 $y=ax+b$ について、変化の割合が一定で a の値に等しいことを理解している	関数	短答	○	54.6%	△	60.3%	◇
					無解答率とその比較	13.8%	22.3%	-8.5	19.2%
★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上下回った設問 【下位5問抜粋】									
2(1)	ある数を3でわると、商が a で余りが2になるとき、ある数を a を用いた式で表す	数量の関係を文字式に表すことができる	数と式	短答	■	32.2%	▼	30.0%	▼
					無解答率とその比較	12.4%	12.5%	-0.1	14.2%
5(1)	三角柱において、与えられた辺とねじれの位置にある辺を書く	空間における直線と直線との位置関係(辺と辺とがねじれの位置にあること)を理解している	図形	短答	○	75.5%	▼	68.5%	≡
					無解答率とその比較	1.9%	2.6%	-0.7	3.3%
5(3)	立方体の見取図を読み取り、2つの角の大きさの関係について、正しい記述を選ぶ	見取図に表された立方体の角の大きさの関係を読み取ることができる	図形	選択	○	78.8%	▼	77.0%	▼
					無解答率とその比較	0.2%	0.6%	-0.4	0.6%
5(4)	円柱の体積が 600cm^3 のとき、その円柱と底面の円が合同で高さが等しい円錐の体積を求める	円錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい円柱の体積の $1/3$ であることを理解している	図形	短答	■	49.9%	▼	45.3%	▼
					無解答率とその比較	14.4%	14.2%	+0.2	16.3%
9(3)	反比例を表した事象を選ぶ	具体的な事象における2つの数量の関係が、反比例の関係になることを理解している	関数	選択	■	42.0%	▼	39.9%	▼
					無解答率とその比較	0.8%	1.3%	-0.5	1.4%
★上記以外で、恵庭市の無解答率が10%以上になった設問 【下位5問抜粋】									
3(3)	縦と横の長さの比が5:8の長方形の看板について、縦の長さが45cmのときの横の長さ x cmを決めるための比例式をつくる	具体的な場面における数量の関係を捉え、比例式をつくることができる	数と式	短答	●	52.3%	◇	54.1%	≡
					無解答率とその比較	16.0%	15.4%	+0.6	17.9%
7(2)	ひし形の対角線が垂直に交わることを、記号を用いて表す	ひし形について対角線が垂直に交わることを、記号を用いて表すことができる	図形	短答	○	74.7%	◆	73.7%	≡
					無解答率とその比較	12.8%	11.4%	+1.4	12.5%
9(4)	反比例のグラフから式を求める	反比例のグラフ上の点の座標から、 x と y の関係を式で表すことができる	関数	短答	■	34.5%	◆	33.2%	◆
					無解答率とその比較	14.4%	14.8%	-0.4	17.0%
10(3)	一次関数のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求める	一次関数のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求めることができる	関数	短答	■	43.0%	◇	43.9%	◇
					無解答率とその比較	18.3%	18.9%	-0.6	20.8%
12(1)	読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める	資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる	資料の活用	短答	■	45.5%	◆	44.3%	≡
					無解答率とその比較	15.5%	17.4%	-1.9	19.2%

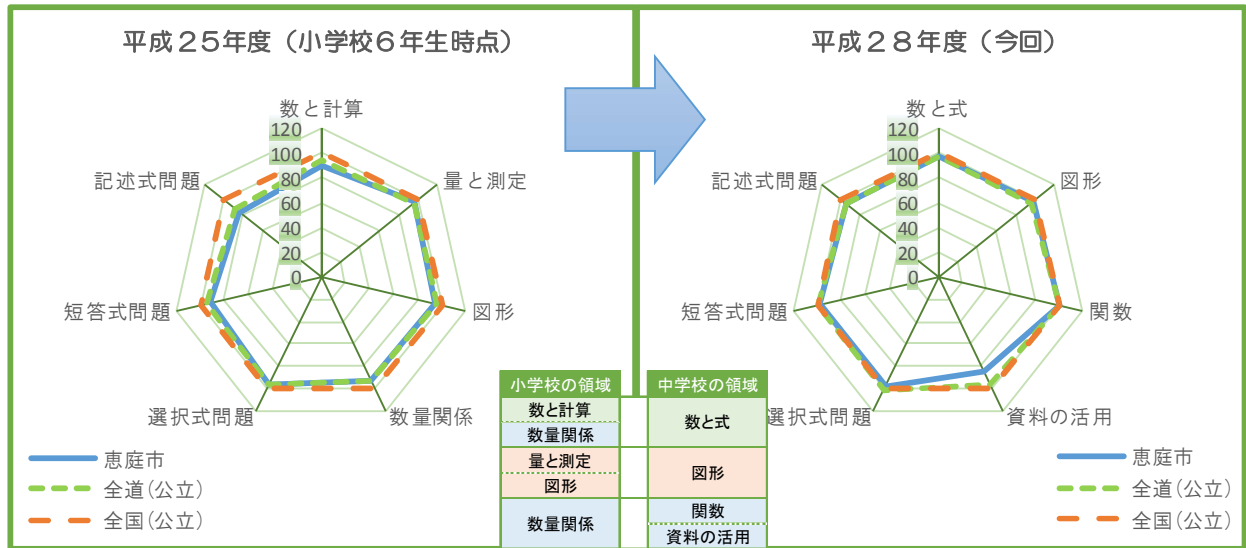
記号の意味 恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下
比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≡同様 ◆やや下回る ▼下回る

⑧ 中学校 数学 B (主として「活用」に関する問題)

解答時間45分・設問数15問

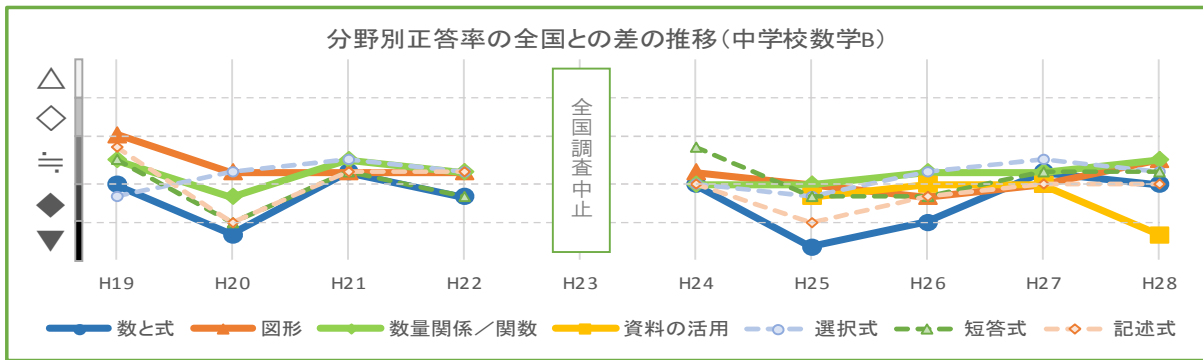
- 各領域等の平均正答率は、「資料の活用」で全国を下回り、全道をやや下回っているものの、それ以外に全国より2ポイントを超えて下回った領域等はなく、全国・全道と同様である。「関数」では、全国・全道よりごくわずかに上位にあり、全道と比べると「図形」で上位に、「記述式問題」でもごくわずかに上位にある。
- 平成25年度(小学校6年生時点)と比較して、「数と計算(中学校での「数と式」に相当)を中心にはほとんどの領域で全国とのポイント差が縮小しているが、「数量関係(中学校での「関数」と「資料の活用」に相当)」については、「資料の活用」としてはポイント差が拡大した。
- 正答数が全国下位4分の1層の生徒の割合については、平成25年度以降、全国とのポイント差がゆるやかに改善(底上げ)傾向であり、前年度に引き続き、全国とほぼ同様となっている。
- 一次関数の関係を表から見出して数値を求める設問が全国・全道よりよくできていた。一方で、与えられた情報を選択して必要な式を作ることや、図形の性質を用いた証明や説明、グラフの傾向を踏まえた判断根拠の説明など、数学的に考えたことを表現することに課題があるといえる。

* 全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率(分野別レーダーチャート)



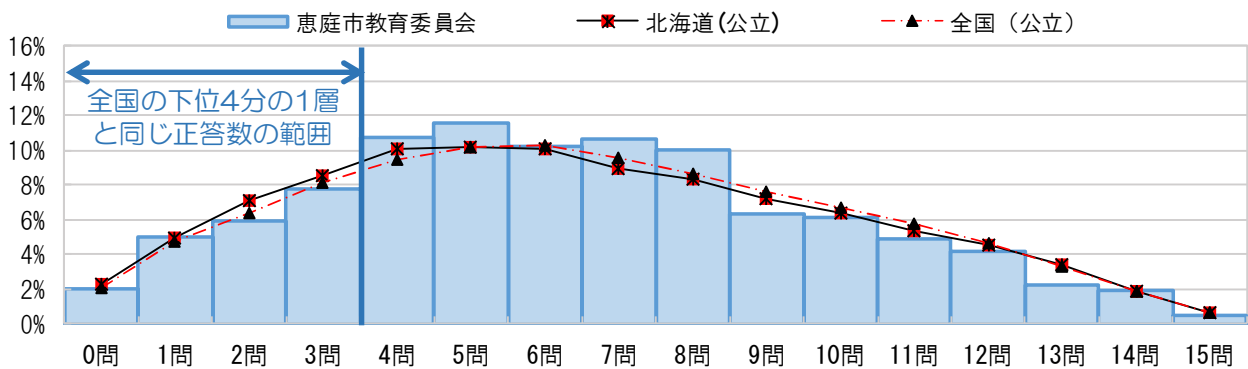
* 中学校数学 B 分野別(領域・問題形式別)平均正答率の状況

		領域別正答率				問題形式別正答率		
		数と式	図形	関数	資料の活用	選択式問題	短答式問題	記述式問題
H28 (今回)	恵庭市	●	●	●	●	●	●	●
	国と比較	≒	≒	≒	▼	≒	≒	≒
	全国(公立)	51.5%	33.3%	41.4%	39.3%	41.3%	57.8%	33.1%
	道と比較	≒	≒	≒	◆	≒	≒	≒
	全道(公立)	50.3%	31.9%	41.5%	37.8%	41.9%	57.6%	31.4%
H27 (前回)	国と比較	≒	≒	≒	≒	≒	≒	◆
	道と比較	◇	≒	≒	≒	≒	≒	≒
記号の意味		恵庭市の正答率が… ●80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ●49%以下						
		比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≒同様 ◆やや下回る ▼下回る						



※全国とのポイント差を単純化した数値をもとに、各年度における**おおよその傾向**を表したグラフである。
 ※「数量関係」はH25より「関数」と「資料の活用」に分離。

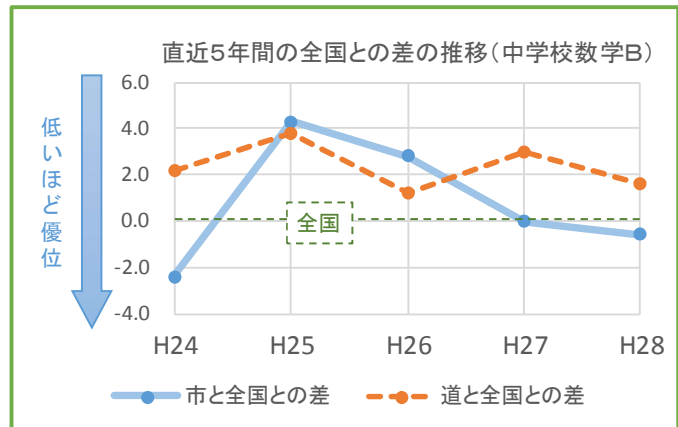
＊平成28年度 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：生徒全体に占める割合）



＊全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
H28 (今回)	恵庭市 (前回比)	20.7% (-8.1)	-0.6 (-0.6)
	全国 (前回比)	21.3% (-7.5)	
	全道 (前回比)	22.9% (-8.9)	1.6 (-1.4)
H27 (前回)	恵庭市	28.8%	0.0
	全国	28.8%	
	全道	31.8%	3.0

※割合は正答数ごとにまとまっており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる児童・生徒の割合を示している。



※比較元となる全国の割合が年度によって異なるため、年度間の単純比較はできないが、おおよその傾向が把握できる。

＊恵庭市における設問別結果の概要

全15問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を 3ポイント以上上回った設問	1問	数と式	0 / 6問	選択式問題	0 / 2問
		図形	0 / 2問	短答式問題	1 / 6問
		関数	1 / 5問	記述式問題	0 / 7問
		資料の活用	0 / 2問		
全国の正答率を 3ポイント以上下回った設問	5問	数と式	1 / 6問	選択式問題	0 / 2問
		図形	0 / 2問	短答式問題	2 / 6問
		関数	2 / 5問	記述式問題	3 / 7問
		資料の活用	2 / 2問		
無解答率が 10%以上の設問	8問	数と式	3 / 6問	選択式問題	0 / 2問
		図形	1 / 2問	短答式問題	3 / 6問
		関数	2 / 5問	記述式問題	5 / 7問
		資料の活用	2 / 2問		

* 主な設問別結果一覧

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市 正答率	全国(公立)		全道(公立)													
						正答率	比較	正答率	比較												
★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上上回った設問																					
2(1)	一次関数の表から $x=4$ のときの y の値を求める	条件を基に、表から数量の変化や対応の特徴を捉え、 x の値に対応する y の値を求めることができる	関数	短答	○	59.1%	△	64.0%	◇												
					無解答率とその比較	4.9%	8.7%	-3.8	9.0%	-4.1											
★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上下回った設問																					
1(2)	葉月さんの提案を取り入れたとき、1試合の時間を求めるための方程式をつくる	与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、数量の関係を数学的に表現することができる	数と式	短答	▪	33.4%	◆	32.3%	≡												
					無解答率とその比較	19.6%	19.3%	+0.3	22.2%	-2.6											
2(2)	$x=4$ のとき $y=9$ になるように、 x と y の間の関係を書き加えることについて、正しい記述を選び、その理由を説明する	加えるべき条件を判断し、それが適している理由を説明することができる	関数	記述	▪	20.6%	◆	19.1%	≡												
					無解答率とその比較	8.8%	8.2%	+0.6	10.7%	-1.9											
3(1)	A車を購入して10年間使用するときの総費用を求める	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる	関数	短答	○	67.4%	◆	65.3%	≡												
					無解答率とその比較	2.0%	3.4%	-1.4	3.7%	-1.7											
5(1)	24.5cmの靴を最も多く買うという考えが適切ではない理由を、グラフの特徴を基に説明する	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	資料の活用	記述	▪	47.6%	◆	46.5%	◆												
					無解答率とその比較	19.9%	19.3%	+0.6	22.3%	-2.4											
5(2)	25.5cmの靴が貸し出された回数の相対度数を求める式を書く	与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現することができる	資料の活用	短答	▪	31.1%	▼	29.2%	▼												
					無解答率とその比較	34.9%	33.5%	+1.4	36.2%	-1.3											
★上記以外で、恵庭市の無解答率が10%以上になった設問																					
3(3)	A車とB車について、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	関数	記述	▪	30.3%	≡	27.4%	≡												
					無解答率とその比較	14.9%	12.1%	+2.8	15.9%	-1.0											
4(1)	2つの辺の長さが等しい事を、三角形の合同を利用して証明する	筋道を立てて考え、証明することができる	図形	記述	▪	29.4%	≡	29.4%	≡												
					無解答率とその比較	19.7%	22.3%	-2.6	25.7%	-6.0											
4(2)	DA:DC=1:2のときの△DECがどのような三角形になるかを説明する	付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することができる	図形	記述	▪	37.3%	≡	34.5%	≡												
					無解答率とその比較	31.1%	30.5%	+0.6	34.9%	-3.8											
6(1)	最初に決めた数が5のとき、手順通りに求めた数を書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	数と式	短答	○	76.4%	≡	75.1%	≡												
					無解答率とその比較	11.1%	12.8%	-1.7	13.7%	-2.6											
6(2)	文字を使って手順通りに求めた数から最初に決めた数を当てる方法を説明する	与えられた式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明することができる	数と式	記述	▪	15.4%	≡	14.8%	≡												
					無解答率とその比較	43.3%	41.5%	+1.8	44.7%	-1.4											
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2">記号の意味</td> <td>恵庭市の正答率が…</td> <td>◎80%以上</td> <td>○60%~79%</td> <td>●50%~59%</td> <td>・49%以下</td> </tr> <tr> <td>比較先よりも平均正答率が…</td> <td>△上回る</td> <td>◇やや上回る</td> <td>≡同様</td> <td>◆やや下回る</td> <td>▼下回る</td> </tr> </table>										記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≡同様	◆やや下回る	▼下回る
記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下																
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≡同様	◆やや下回る	▼下回る															

3 「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」調査結果

(1) 小学校児童質問紙調査結果の概要

小学校 児童質問紙
学校質問紙

回答時間20分・質問数85問
回答時間設定なし・質問数116問

質問紙調査の主な項目の回答結果データは、36ページ以降に掲載しています。

ア. 生活習慣

【早寝早起き朝ごはん】平日夜11時より前に就寝すると答えた割合が、全国より5.1ポイント、全道より2.9ポイント高い。早起きについて直接の質問はないが、毎日同じくらいの時刻に起きると答えた割合は、全国・全道より2.2~3.3ポイント低い。朝食を食べていると答えた割合は、全国・全道とおおむね同様である。いずれも9割前後の児童が肯定的に回答しており、全体として規則正しく生活を送っていることが分かる。

【テレビ・ゲーム・スマホ】1日当たり2時間以上利用していると答えた割合が、テレビでは60.6%と全国より3.5ポイント高く、ゲームでは35.3%と全国より5.6ポイント高く、携帯電話やスマートフォンでは11.8%と全国より若干高い程度。特に長時間ゲームをする割合が全国より高いのは、全道と同様の傾向である。夜更かして生活リズムを崩したり、家でのだらんや学習の時間を損ねないように、道教委が示している全て合わせて2時間以内を目安に、家庭・学校双方から「節度ある利用」を指導していくことが重要である。

【参考】道教委リーフレット「時間の目安を決めて子どもの生活リズムを整える！」
(http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/gks/jikan_meyasu.htm)
※ 記載したウェブサイトのアドレスは、平成29年2月28日現在のものです。

イ. 自分やまわりへの意識

【自尊感情】自分には良いところがあると答えた割合は、75%を超えており、全国より若干低い程度だが、全道より2.1ポイント高い。

【挑戦心・親切心】難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していると答えた割合は70.4%であるが、全国より5.7ポイント、全道より3.1ポイント低い。また、人が困っているときは進んで助けると答えた割合は、80.6%と高いものの、全国より4ポイント、全道より2.1ポイント低く、やや控えめな児童が一定数いるものと思われる。しかし、地域社会などでボランティア活動に参加したことがあると答えた割合が、全国より9.3ポイント、全道より12.1ポイント高く、きわだっている。集団活動や行事など、気持ちを後押しする要素をきっかけに親切心を発揮できる児童が多いのではないかと考えられる。

ウ. 家庭学習

【家庭学習の時間】市教委では、小学校6年生の家庭学習の時間の目安を70分(学年×10分+10分)としている。これをほぼ達成するレベルとして、平日に1時間以上学校以外で勉強していると答えた割合は58.3%であり、全道より3.6ポイント高いが、全国より4.2ポイント低い。休日に1時間以上勉強していると答えた割合は、62.7%であり、全国・全道より5.7~6.7ポイント高い。特に平日に習慣として十分な時間を家庭学習に充てることが課題である。(次ページへ続く)

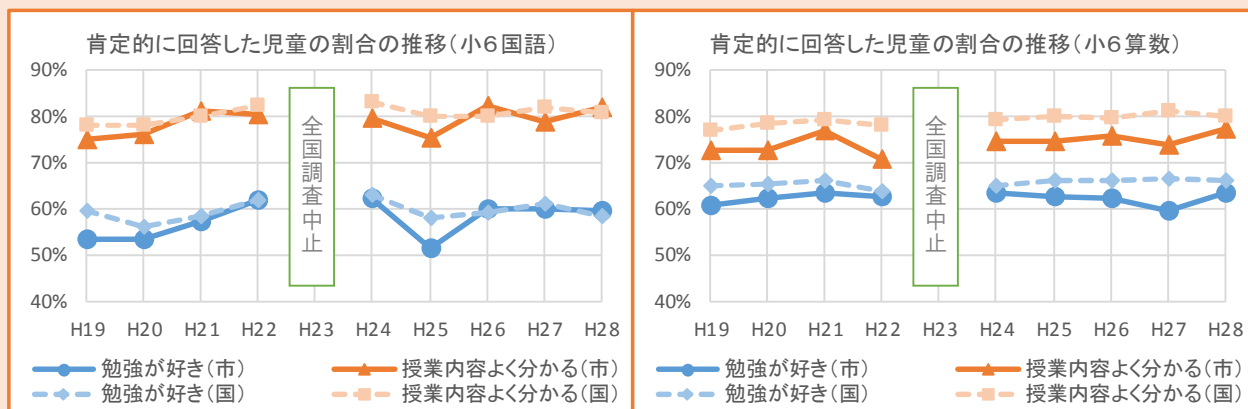
【家庭学習の内容】家で学校の授業の予習をしていると答えた割合は47%で、全国より3.7ポイント高い程度だが、家で学校の授業の復習をしていると答えた割合は73.2%となり、全国より18ポイント、全道より7.8ポイントも高く、きわだっている。教科書を使いながら自学自習していると答えた割合も、全国より11.1ポイント高いことから、学校において学習内容の定着を目指した家庭学習の指導が行われ、児童が着実に実践していると考えられる。

エ. 学校での学習

【学習活動全般】（5年生までに受けた）授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと答えた割合は70.1%で、全国より6ポイント、全道より2.4ポイント低い。また、学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと答えた割合は58%で、全国より3.2ポイント、全道より5.5ポイント高い。学校質問紙では、全ての学校がこれらの学習活動に着実に取り組んだと答えているものの、一部の児童が学習内容を振り返る活動を不十分と感じたり、説明や記述を行う学習活動を苦手としていると考えられる。

【国語・算数】その教科の勉強が好きと答えた割合は、**国語**では59.6%と全国・全道とほぼ同様であり、**算数**では63.5%と全国より2.5ポイント低い。その教科の授業の内容がよく分かったと答えた割合は、**国語**では81.8%で全国・全道とほぼ同様であり、**算数**では77.2%と全国より3ポイント低い。

この2つの設問に関し（好き・良く分かるなど）肯定的に回答した割合の推移は下図のとおり。国語・算数ともに、近年、児童の意識に特にきわだった変化はないものの、平成28年度は前年度と比較して、算数に関する肯定的な回答の割合が3~4ポイント程度増えている。



また、今回の「教科に関する調査(テスト)」の全ての記述式問題を解くのに最後まで努力したと答えた割合は、**国語・算数ともに**、全国より6ポイントほど低く、【学習活動全般】で挙げた児童の苦手意識が反映されたものとなっている。

オ. 読書

【読書意識】市内全ての小・中学校では、学校司書が配置され、一斉読書の時間を設けるなど、本に親しみ、読書を習慣とする環境づくりを着実にやっている。読書が好きと答えた割合は、80.5%であり、全国・全道より6ポイントほど高く、各学校での取り組みの成果が現れていると思われる。

【読書習慣】（授業時間以外に）平日30分以上読書すると答えた割合は38.7%で、全国より2.2ポイント、全道より4.1ポイント多いが、一方で、平日全く読書しないと答えた割合は21%と全国とほぼ同様になっている。学校の図書室や地域の図書館に月1回以上行くと答えた割合は51.9%で、全国より11.6ポイント、全道より15.3ポイント高く、きわだっている。

(2) 中学校生徒質問紙調査結果の概要

中学校 生徒質問紙
学校質問紙

回答時間20分・質問数85問
回答時間設定なし・質問数114問

質問紙調査の主な項目の回答結果データは、36ページ以降に掲載しています。

ア. 生活習慣

【早寝早起き朝ごはん】平日夜11時より前に就寝すると答えた割合は47.3%で、全国より10.4ポイント、全道より7.6ポイント高い。比較的早寝の生徒が多いものの、半数以上の生徒は夜更かし気味であるともいえる。毎日同じくらいの時刻に起きていると答えた割合や、朝食を食べていると答えた割合は、全国・全道とおおむね同様であり、9割超の生徒が肯定的に回答している。

【テレビ・ゲーム・スマホ】1日当たり2時間以上利用していると答えた割合が、テレビでは48.6%（前年比-10.3ポイント）と全国とほぼ同様、ゲームでは39.2%（前年比-3.9ポイント）と全国より4.3ポイント高く、携帯電話やスマートフォンでは32.1%（前年比+3.3ポイント）と全国より2ポイント高い。全道と同様の傾向として、長時間ゲーム・スマホ等を利用する割合が全国より高いが、特に当市ではスマホ等の利用が増える傾向にある。

イ. 自分やまわりへの意識

【自尊感情】自分には良いところがあると答えた割合は66.2%であり、全国より3.1ポイント、全道より1.9ポイント低いが、前年度の生徒（57.0%）と比べ9ポイント以上割合が増加した。

【挑戦心・親切心】難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していると答えた割合は65.8%であり、全国より3.8ポイント、全道より2.6ポイント低い。また、人が困っているときは進んで助けると答えた割合は77.1%だが、全国より6.7ポイント、全道より5ポイント低く、小学校6年生同様、行動に移す意識にやや控えめな生徒がいると思われる。ただし、地域社会などでボランティア活動に参加したことがあると答えた割合が、全国より10.5ポイント、全道より15.2ポイント高く、きわだっており、小学校6年生同様、気持ちを後押しする要素をきっかけに親切心を発揮できる生徒が多いのではと考えられる。

ウ. 家庭学習

【家庭学習の時間】市教委では、中学校3年生の家庭学習の時間の目安を100分（小1から数えた学年×10分+10分）としている。これをほぼ達成するレベルとして、平日に1時間以上学校以外で勉強していると答えた割合は66%であり、全道より4.2ポイント高いが、全国より1.9ポイント低い。今回の中学校3年生が小学校6年生だった時点（平成25年度）では、平日に1時間以上勉強していると答えた割合は58.5%であったので、3年経過しても7.5ポイントの増加に留まっていることになる。小学校同様、平日に習慣として十分な時間を家庭学習に充てることが課題であるといえる。

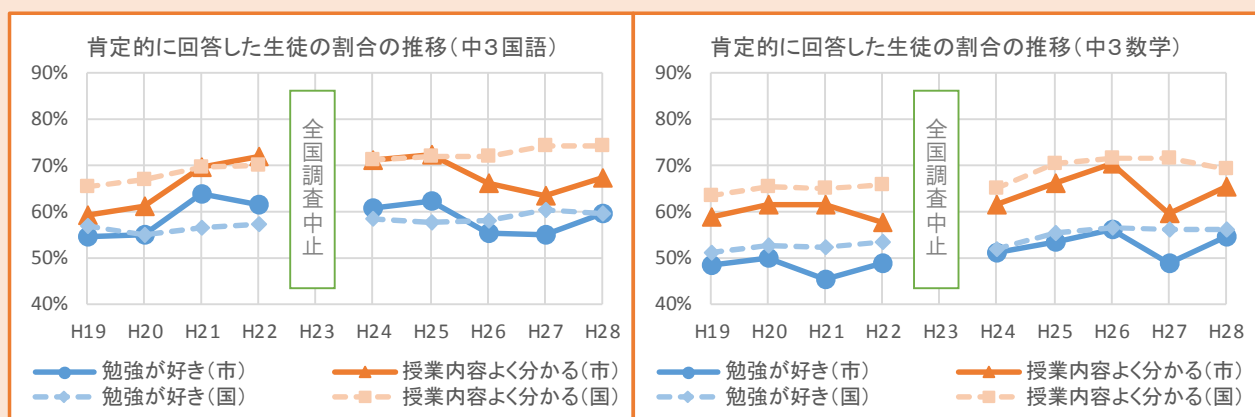
【家庭学習の内容】家で学校の授業の予習をしていると答えた割合は39%で、全国より4.8ポイント、全道より5.6ポイント高い。また、家で学校の授業の復習をしていると答えた割合は62.7%で、全国より11.7ポイント、全道より6.3ポイント高く、きわだっている。小学校同様、学校において学習内容の定着を目指した家庭学習の指導が行われ、生徒が着実に実践していると考えられる。ただし、家で自分で計画を立てて勉強をしていると答えた割合が全国・全道より3.5ポイント程度低い。

(次ページへ続く)

エ. 学校での学習

【学習活動全般】（1・2年生のときに受けた）授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと答えた割合は55.2%で、全国より7.9ポイント低く、全道とほぼ同様である。学校質問紙では、全ての学校が学習活動の振り返りに計画的に取り組んだと答えているものの、一部の生徒が学習内容を振り返る活動を不十分と感じていると考えられる。

【国語・数学】その教科の勉強が好きと答えた割合は、国語では59.5%で全国とほぼ同様、数学では54.8%と全国より1.2ポイント低い。その教科の授業の内容がよく分かると答えた割合は、国語では67.5%と全国より6.6ポイント低く、数学では65.5%と全国より3.9ポイント低い。この2つの設問に関し（好き・良く分かるなど）肯定的に回答した割合の推移は下図のとおり。国語は平成26年度から、数学は前年度に肯定的な回答の割合が落ち込んだものの、平成28年度はいずれも4～6ポイント程度持ち直している。



なお、今回の中学校3年生が小学校6年生だった時点（平成25年度）では、その教科の勉強が好きと答えた割合は、国語では51.5%、数学では62.9%となっており、3年経過して、国語では割合が8ポイント増加、算数（数学）では逆に8ポイントほど減少している。その教科の授業の内容がよく分かると答えた割合は、国語では75.6%、数学では74.7%であり、3年経過して、国語・算数（数学）ともに割合が8～9ポイントほど減少している。特に数学については、内容が難しくなることが学習意欲の低下に結びついていると考えられる。

また、今回の「教科に関する調査（テスト）」の全ての記述式問題を解くのに最後まで努力したと答えた割合は、国語・算数ともに、全国より4ポイントほど低い。国語の授業で自分の考えを書くと、考えの理由が分かるように気をつけて書いていると答えた割合が全国・全道より6ポイントほど低いことなどから、小学校6年生同様、一部の生徒が説明や記述を行う学習活動を苦手としていると考えられる。

オ. 読書

【読書意識】読書が好きと答えた割合は、74.6%で、全国より4.7ポイント高く全道とおおむね同様である。今回の中学校3年生が小学校6年生だった時点（平成25年度）では、読書が好きと答えた割合は77%であったので、3年経過しても2.4ポイントの減少に留まっていることになる。

【読書習慣】（授業時間以外に）平日30分以上読書すると答えた割合は29.9%で、全国・全道とおおむね同様であるが、平日全く読書しないと答えた割合は34.8%で、全国より2.4ポイント低い。学校の図書室や地域の図書館に月1回以上行くと答えた割合は26.5%で、全国より7.9ポイント、全道より10ポイント高く、小学校6年生同様きわだっている。

(3) 児童・生徒質問紙の回答状況と学力のクロス集計（基準別集計）結果

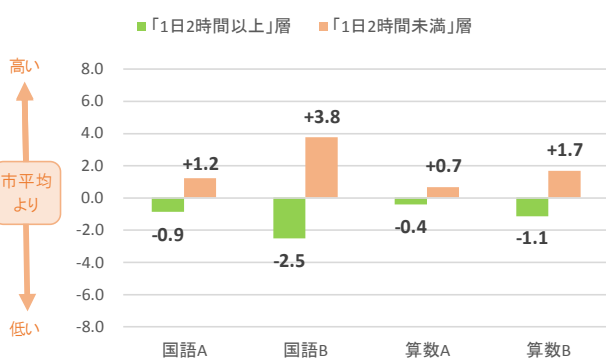
今回、児童・生徒質問紙の質問への回答状況をもとに、「テレビ・ゲーム・スマホの利用」「家庭学習」「読書」という5種類の習慣に使っている時間の長・短でグループ分けし、それぞれのグループ別に「教科に関する調査（テスト）」の教科別結果（市平均と比べたときのポイント差）を割り出して、それぞれの習慣に使っている時間の長・短と、各教科の結果に相関関係があるかどうかを考察した。

- ・特に、長時間のゲーム・スマホの習慣があることや、家庭学習の習慣が短時間しかないことは、各教科の結果が市平均よりマイナスになることと相関関係があると思われる。また、一定時間の読書習慣があることは、特に国語の結果が市平均よりプラスになることと相関関係があると思われる。

① 小学校6年生

テレビ

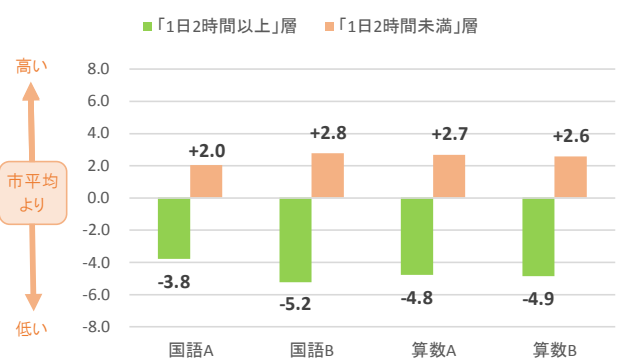
平日のテレビ等視聴時間と平均正答率の関係(小6)



平日1日2時間以上見る層の国語Bの平均正答率が市平均より2.5ポイント低く、逆に2時間未満しか観ない層では3.8ポイント高い。他教科では大きな差がない。

ゲーム

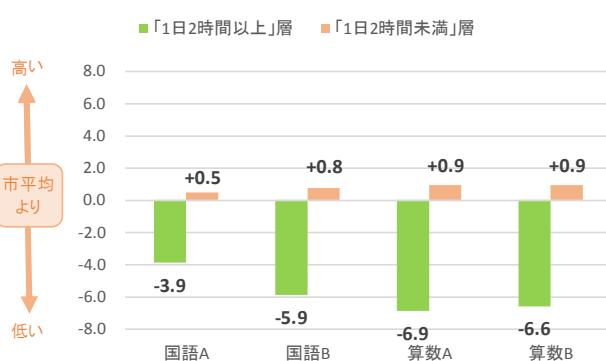
平日のゲーム時間と平均正答率の関係(小6)



平日1日2時間以上する層の平均正答率が全体的に市平均より4~5ポイントほど低く、逆に2時間未満しかない層では2ポイント以上高い。

スマホ

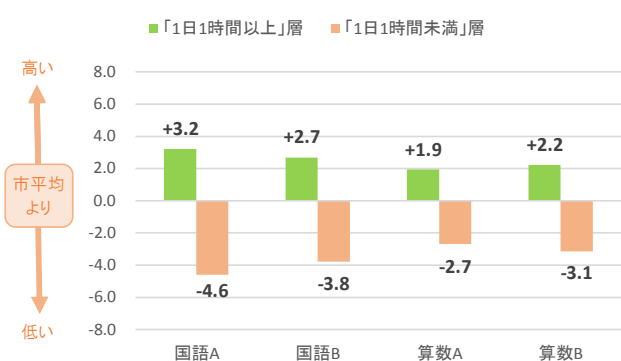
平日の携帯・スマホ使用時間と平均正答率の関係(小6)



平日1日2時間以上する層の平均正答率が算数を中心に市平均より4~7ポイントほど低い。（※層の割合が11.8%と低く、人数が少ないため極端な結果が出やすい側面もある。）

家庭学習

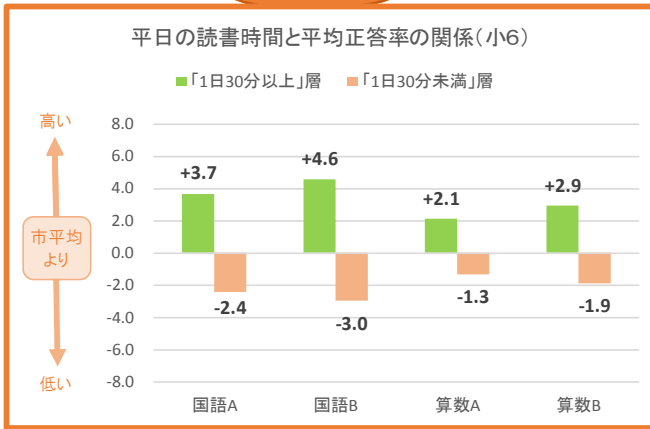
平日の授業以外の学習時間と平均正答率の関係(小6)



平日1日1時間以上する層の平均正答率が全体的に市平均より2~3ポイントほど高く、逆に1時間未満しかない層では3~4ポイント前後低い。（※学習塾等での学習時間も含まれたグループ分けである。）

(次ページへ続く)

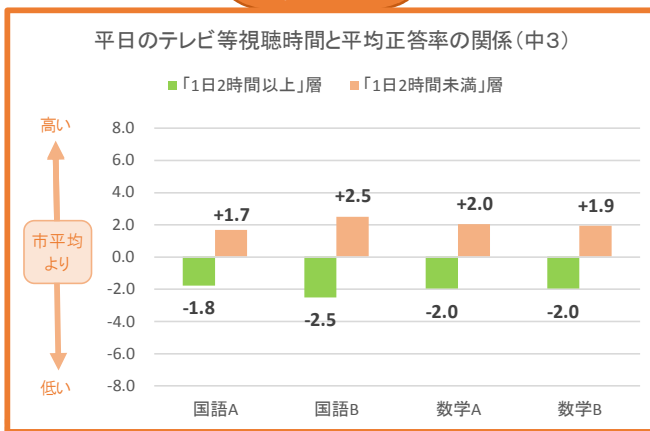
読書



平日 1 日 30 分以上する層の平均正答率が国語を中心に市平均より 2~4 ポイント以上高く、逆に 30 分未満しかしない層では国語を中心に 1~3 ポイント前後低い。

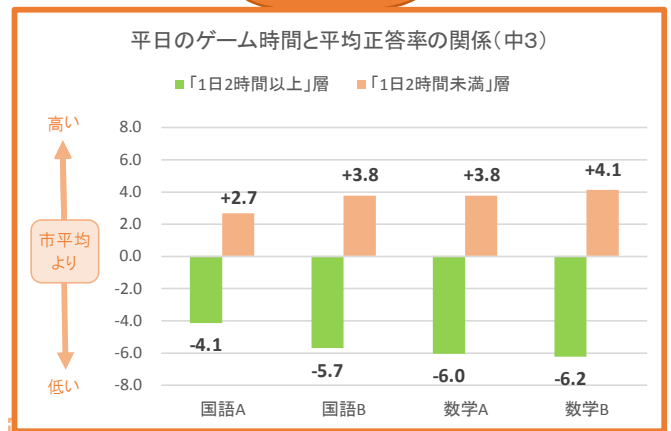
②中学校3年生

テレビ



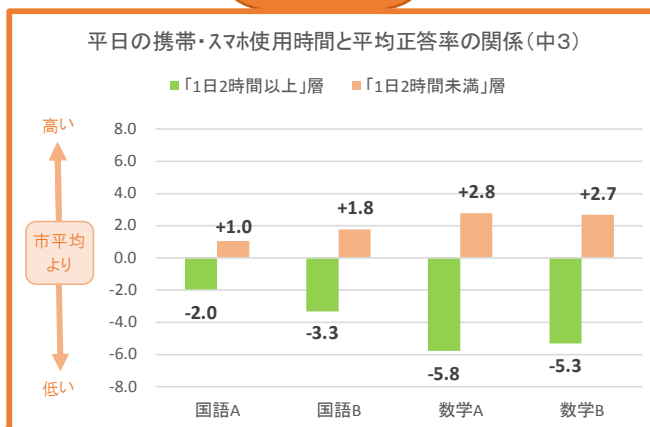
平日 1 日 2 時間以上見る層の平均正答率が全体的に市平均より 2~2.5 ポイント前後低く、逆に 2 時間未満しか観ない層では 2~2.5 ポイント前後高い。

ゲーム



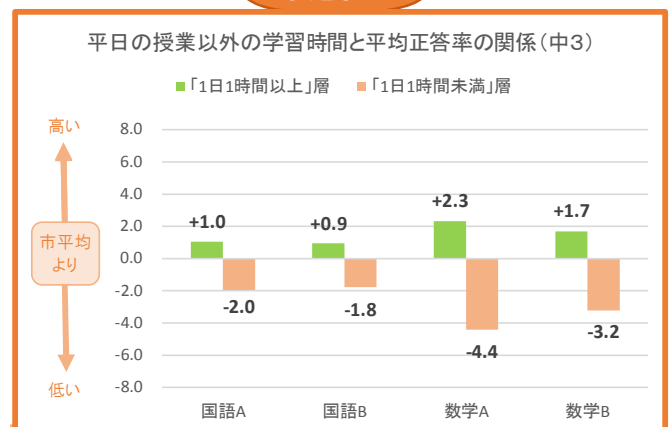
平日 1 日 2 時間以上する層の平均正答率が全体的に市平均より 4~6 ポイントほど低く、逆に 2 時間未満しかしない層では 3~4 ポイント程度高い。

スマホ



平日 1 日 2 時間以上する層の平均正答率が数学を中心に市平均より 2~6 ポイントほど低く、逆に 2 時間未満しかしない層では数学を中心に 1~3 ポイント前後高い。

家庭学習

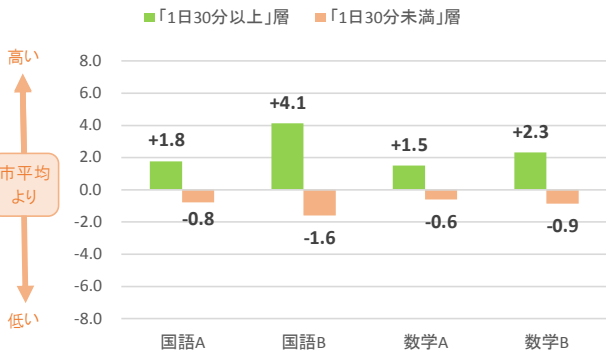


平日 1 日 1 時間以上する層の平均正答率が数学を中心に市平均より 1~2 ポイントほど高く、逆に 1 時間未満しかしない層では数学を中心に 2~4 ポイント前後低い。(※学習塾等での学習時間も含まれる。)

(次ページへ続く)

読書

平日の読書時間と平均正答率の関係(中3)



平日1日30分以上する層の平均正答率が国語Bを中心に市平均より1.5~4ポイントほど高く、逆に30分未満しかしない層では国語Bを中心に0.5~1.5ポイント前後低い。

(4) 児童・生徒質問紙及び学校質問紙調査の主な回答結果データ

①児童・生徒質問紙

質問番号	質問事項	回答率に含まれる回答の範囲	学年	恵庭市回答率	全国(公立)		全道(公立)	
					回答率	比較	回答率	比較
ア. 生活習慣に関する質問								
1	朝食を毎日食べていますか	「している」「どちらかといえば、している」	小6	94.9%	95.5%	-0.6	94.0%	0.9
			中3	94.0%	93.3%	0.7	92.5%	1.5
3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	「している」「どちらかといえば、している」	小6	87.5%	90.8%	-3.3	89.7%	-2.2
			中3	91.4%	92.3%	-0.9	92.5%	-1.1
10	普段(月～金曜日)、何時ごろに寝ますか	11時より前	小6	91.3%	86.2%	5.1	88.4%	2.9
			中3	47.3%	36.9%	10.4	39.7%	7.6
11	普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか(勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間、テレビゲームをする時間は除く)	2時間以上している	小6	60.6%	57.1%	3.5	60.2%	0.4
			中3	48.6%	48.7%	-0.1	50.0%	-1.4
12	普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか	2時間以上している	小6	35.3%	29.7%	5.6	37.0%	-1.7
			中3	39.2%	34.9%	4.3	40.2%	-1.0
13	普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)	2時間以上している	小6	11.8%	10.4%	1.4	13.8%	-2.0
			中3	32.1%	30.1%	2.0	34.9%	-2.8
イ. 自分やまわりへの意識に関する質問								
5	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	70.4%	76.1%	-5.7	73.5%	-3.1
			中3	65.8%	69.6%	-3.8	68.4%	-2.6
6	自分には、よいところがあると思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	75.1%	76.3%	-1.2	73.0%	2.1
			中3	66.2%	69.3%	-3.1	68.1%	-1.9
32	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	82.3%	82.6%	-0.3	81.2%	1.1
			中3	81.4%	78.0%	3.4	79.5%	1.9
36	地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか	「参加したことがある」	小6	45.5%	36.2%	9.3	33.4%	12.1
			中3	59.2%	48.7%	10.5	44.0%	15.2
41	人が困っているときは、進んで助けていますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	80.6%	84.6%	-4.0	82.7%	-2.1
			中3	77.1%	83.8%	-6.7	82.1%	-5.0
ウ. 家庭学習に関する質問								
14	学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)	1時間以上している	小6	58.3%	62.5%	-4.2	54.7%	3.6
			中3	66.0%	67.9%	-1.9	61.8%	4.2
15	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)	1時間以上している	小6	62.7%	57.0%	5.7	56.0%	6.7
			中3	67.7%	67.8%	-0.1	66.1%	1.6

(次ページへ続く)

①児童・生徒質問紙（続き）

質問 番号	質問事項	回答率に 含まれる 回答の範囲	学年	恵庭市 回答率	全国(公立)		全道(公立)	
					回答率	比較	回答率	比較
ウ. 家庭学習に関する質問（続き）								
16	学習塾(家庭教師を含む)で勉強をしていますか	している	小6	35.9%	45.9%	-10.0	36.9%	-1.0
			中3	52.3%	61.0%	-8.7	49.5%	2.8
21	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	「している」「どちらかといえば、している」	小6	64.9%	62.2%	2.7	63.3%	1.6
			中3	44.7%	48.4%	-3.7	48.2%	-3.5
23	家で、学校の授業の予習をしていますか	「している」「どちらかといえば、している」	小6	47.0%	43.3%	3.7	48.4%	-1.4
			中3	39.0%	34.2%	4.8	33.4%	5.6
24	家で、学校の授業の復習をしていますか	「している」「どちらかといえば、している」	小6	73.2%	55.2%	18.0	65.4%	7.8
			中3	62.7%	51.0%	11.7	56.4%	6.3
25	家で、予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか	「している」「どちらかといえば、している」	小6	75.7%	64.6%	11.1	70.8%	4.9
			中3	68.9%	68.2%	0.7	70.5%	-1.6
エ. 学校での学習に関する質問								
26	学校に行くのは楽しいと思いますか	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」	小6	82.8%	86.3%	-3.5	83.6%	-0.8
			中3	76.2%	81.4%	-5.2	77.9%	-1.7
53	5年生までに／1, 2年生のときに受けた授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	85.2%	87.6%	-2.4	84.2%	1.0
			中3	85.1%	84.9%	0.2	80.6%	4.5
54	5年生までに／1, 2年生のときに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	70.1%	76.1%	-6.0	72.5%	-2.4
			中3	55.2%	63.1%	-7.9	55.7%	-0.5
58	学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」	小6	58.0%	54.8%	3.2	52.5%	5.5
			中3	63.0%	62.8%	0.2	59.7%	3.3
61	国語の勉強は好きですか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	59.6%	58.3%	1.3	58.5%	1.1
			中3	59.5%	59.8%	-0.3	62.4%	-2.9
63	国語の授業の内容はよく分かりますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	81.8%	80.7%	1.1	80.9%	0.9
			中3	67.5%	74.1%	-6.6	75.6%	-8.1
68	国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	68.5%	74.0%	-5.5	72.6%	-4.1
			中3	60.5%	66.7%	-6.2	66.6%	-6.1
70	今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか／最後まで解答を書こうと努力しましたか	全ての問題で最後まで解答を書こうと努力した	小6	69.0%	75.1%	-6.1	72.5%	-3.5
			中3	67.7%	71.7%	-4.0	70.1%	-2.4
71	算数／数学の勉強は好きですか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	63.5%	66.0%	-2.5	64.1%	-0.6
			中3	54.8%	56.0%	-1.2	52.9%	1.9
73	算数／数学の授業の内容はよく分かりますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	77.2%	80.2%	-3.0	77.8%	-0.6
			中3	65.5%	69.4%	-3.9	67.6%	-2.1
76	算数／数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	64.0%	67.4%	-3.4	63.5%	0.5
			中3	39.3%	41.9%	-2.6	37.6%	1.7
81	今回の算数／数学の問題について、言葉や数・式を使って、わけや求め方など書く問題がありましたが、どのように解答しましたか／解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか	全ての問題で最後まで解答を書こうと努力した	小6	65.7%	72.0%	-6.3	69.0%	-3.3
			中3	46.2%	50.0%	-3.8	45.7%	0.5
オ. 読書に関する質問								
17	学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)	1日当たり30分以上している	小6	38.7%	36.5%	2.2	34.6%	4.1
			中3	29.9%	28.2%	1.7	30.2%	-0.3
		全くない	小6	21.0%	20.6%	0.4	23.8%	-2.8
			中3	34.8%	37.2%	-2.4	36.2%	-1.4
18	屋休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか	月1回以上行く	小6	51.9%	40.3%	11.6	36.6%	15.3
			中3	26.5%	18.6%	7.9	16.5%	10.0
64	読書は好きですか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	80.5%	74.6%	5.9	74.5%	6.0
			中3	74.6%	69.9%	4.7	73.5%	1.1

②学校質問紙

質問番号	質問事項	回答率に含まれる回答の範囲	学校	恵庭市回答率	全国(公立)		全道(公立)	
					回答率	比較	回答率	比較
A. 児童・生徒の自分やまわりへの意識に関する質問								
53	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童／生徒一人一人のよい点や可能性を見付け、児童／生徒に伝えるなど積極的に評価しましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	98.4%	1.6	97.1%	2.9
			中	100.0%	97.2%	2.8	97.8%	2.2
B. 児童・生徒の家庭学習に関する質問								
96 94	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度までに、保護者に対して児童／生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	97.3%	2.7	99.2%	0.8
			中	100.0%	87.5%	12.5	93.3%	6.7
99 97	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、児童／生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	91.9%	8.1	95.5%	4.5
			中	100.0%	87.8%	12.2	92.1%	7.9
C. 児童・生徒の学校での学習に関する質問								
25	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度に、放課後を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか	月に数回以上行った	小	62.5%	48.7%	13.8	65.4%	-2.9
			中	100.0%	51.1%	48.9	66.9%	33.1
27	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度に、長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか(実施した日数の累計)	延5日以上行った	小	37.5%	27.6%	9.9	47.5%	-10.0
			中	100.0%	55.5%	44.5	73.9%	26.1
36	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度までに、授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	98.8%	1.2	98.0%	2.0
			中	100.0%	97.8%	2.2	93.9%	6.1
37	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	94.9%	5.1	95.8%	4.2
			中	100.0%	93.0%	7.0	93.1%	6.9
47	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度までに、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	93.9%	6.1	95.6%	4.4
			中	100.0%	91.3%	8.7	93.4%	6.6
64	調査対象学年の児童／生徒に対して、算数／数学の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか	年間授業のおおよそ1/4以上行った	小	62.5%	45.3%	17.2	50.9%	11.6
			中	80.0%	35.4%	44.6	52.8%	27.2
66	調査対象学年の児童／生徒に対して、算数／数学の授業において、前年度に、チームティーチングによる指導を行いましたか	年間授業のおおよそ1/4以上行った	小	62.5%	46.9%	15.6	59.2%	3.3
			中	80.0%	46.9%	33.1	60.1%	19.9
70	調査対象学年の児童／生徒に対する国語の指導として、前年度までに、書く習慣を付ける授業を行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	87.5%	92.8%	-5.3	93.1%	-5.6
			中	100.0%	95.2%	4.8	94.5%	5.5
75	調査対象学年の児童／生徒に対する算数／数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	50.0%	74.1%	-24.1	83.1%	-33.1
			中	60.0%	69.2%	-9.2	75.4%	-15.4
D. 児童・生徒の読書に関する質問								
24	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度に、図書館資料を活用した授業を計画的に行いましたか	年数回以上行った	小	100.0%	97.7%	2.3	97.3%	2.7
			中	100.0%	88.8%	11.2	88.5%	11.5
86 85	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度までに、博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	87.5%	46.2%	41.3	55.9%	31.6
			中	60.0%	20.4%	39.6	22.7%	37.3



4 総評

- ① 学力調査の結果、恵庭市の小学6年生の平均正答率は、全国平均に比べて、国語A・B、算数A・Bいずれもやや下回りました。恵庭市の中学3年生の平均正答率は、全国平均に比べて、国語A、数学A・Bが同様、国語Bがやや下回りました。なお、昨年度と比べ、教科単位で全国平均と比べた結果には、大きな変化はありませんでした。
- ② また、全国の下位4分の1層の小学6年生・中学3年生の割合と、同じ正答数の範囲に含まれる恵庭市の小学6年生・中学3年生の割合を比べたポイント差については、次のようになりました。

恵庭市の割合 と全国の割合 のポイント差	小学6年生				中学3年生			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
(前回) H27	2.2	4.2	3.7	3.3	2.7	4.9	-1.2	0.0
H28	2.5	4.8	6.8	4.7	1.0	3.2	0.8	-0.6

※全国とのポイント差が小さくなる（最終的にはマイナスになる）ことが、学力の底上げの目安になります。

- ③ 全国の下位4分の1相当層の基礎学力の向上を図るために、各校では、**算数・数学の授業にTT（チームティーチング）や習熟度別学習などの少人数指導を取り入れたり、放課後学習会や長期休業中の学習会を実施するなど、きめ細かい指導に努めてきました。**その結果が、特に中学校3年生の結果に現れ、数学では、全国の下位4分の1相当層に含まれる割合が、全国と同様の水準となっているものと考えられます。引き続き、こうした取り組みの充実を通じて、学力の底上げを図っていきます。また、**平成29年度3校で導入される電子黒板等、ICT環境の整備**を通して、より分かりやすい授業を目指していきます。
- ④ 恵庭市の小学6年生・中学3年生の生活習慣については、テレビやゲーム、携帯電話・スマートフォンなどに費やす時間が長い傾向にあり、その分、中学生の寝る時間が遅い傾向や、日々の家庭学習時間が短い傾向がみられます。
- ⑤ 恵庭市PTA連合会では、毎月第3日曜日を「市P連の日」と定めて、**「ノーデジタル・メディア・チャレンジ」**に取り組んでいます。日時を限定して、「テレビを消す」「携帯電話、スマートフォン、ゲーム機を使わない」「インターネットの利用、メールのやりとりをしない」などのルールを、家族みんなで決めて実行しようという呼びかけを行っています。市教委としても、道教委が示している「（デジタルメディアを）全て合わせて2時間以内」を目安に、**「節度ある利用」**を呼びかけていきたいと考えています。
- ⑥ 市教委では、「**家庭学習の手引き**」を配布しており、家庭学習の時間は、「学年×10分+10分（中学生は7年生・8年生・9年生と数える）」としています。小学校1年生であれば1日20分、中学校3年生は1日100分（1時間40分）の家庭学習の時間を確保できるよう、各校から示されている「家庭学習の手引き」も参考にして、各家庭やPTAの協力もいただきながら、生活習慣・学習習慣づくりに努めていきます。
- ⑦ また、市教委では、今年度、一層豊かな教育活動を目指し、年2回以上の**土曜授業の実施**を全小・中学校へ拡大したほか、**小中連携教育推進委員会**を設置し、各地域の小・中学校ごとのプロジェクトにより、課題や目標の共有・交流の実践など具体的な連携を進め、より充実した教育体制の構築に取り組んでいます。今後も、学校、家庭、地域が連携して児童・生徒の「学力向上に向けた取り組み」を積み重ねていくことが必要であり、市教委として引き続き推進していきたいと思っております。